Ⅴ 調査結果の分析　≪乳幼児・小学生調査≫

＜調査実施の概要＞

①調査地域	江東区内全域
②調査方法 調査期間	郵送法（郵送配付―郵送回収）平成29年９月15日（金）～10月２日（月）
③標本数	８００人
④有効回収数	４２０人
⑤有効回収率	５２．５％

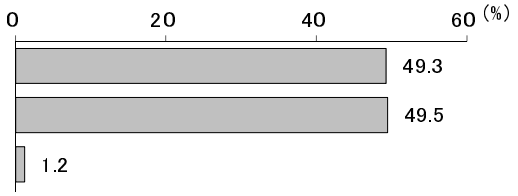
※《乳幼児・小学生》については、保護者の回答であるため、保護者の心がけや姿勢として捉える必要がある。

1　基本的な属性について

（1）基本的な属性

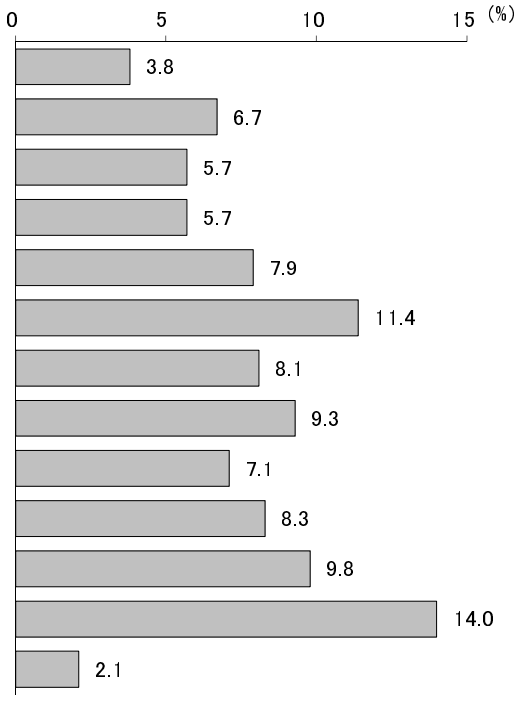
①　性別

	基数(人)	構成比(%)
1　男性	207	49.3
2　女性	208	49.5
(無回答)	5	1.2
合　　計	420	100.0



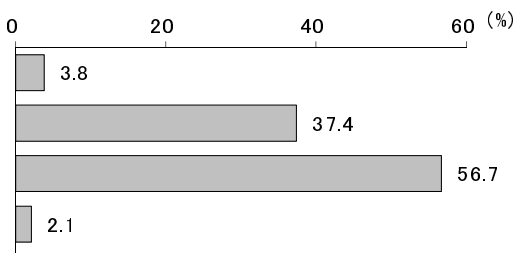
②　年齢別

	基数(人)	構成比(%)
1　0歳	16	3.8
2　1歳	28	6.7
3　2歳	24	5.7
4　3歳	24	5.7
5　4歳	33	7.9
6　5歳	48	11.4
7　6歳	34	8.1
8　7歳	39	9.3
9　8歳	30	7.1
10　9歳	35	8.3
11　10歳	41	9.8
12　11歳	59	14.0
(無回答)	9	2.1
合　　計	420	100.0



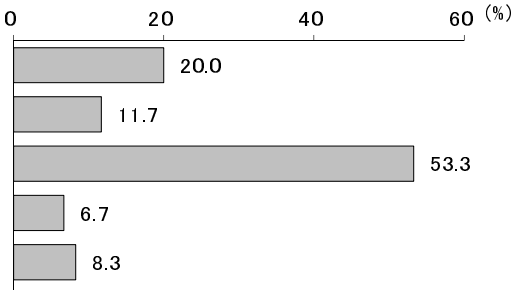
③　年齢別（3分類）

	基数(人)	構成比(%)
1　乳児（0歳）	16	3.8
2　幼児（1～5歳）	157	37.4
3　小学生（6歳以上）	238	56.7
(無回答)	9	2.1
合　　計	420	100.0



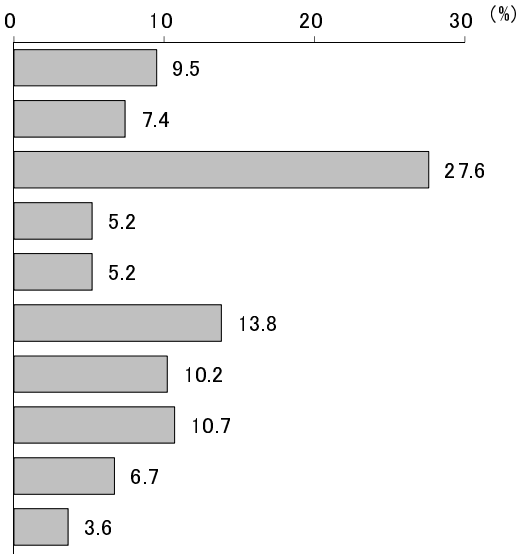
④　通園・通学先

	基数(人)	構成比(%)
1　保育園	84	20.0
2　幼稚園	49	11.7
3　小学校	224	53.3
4　その他	28	6.7
(無回答)	35	8.3
合　　計	420	100.0



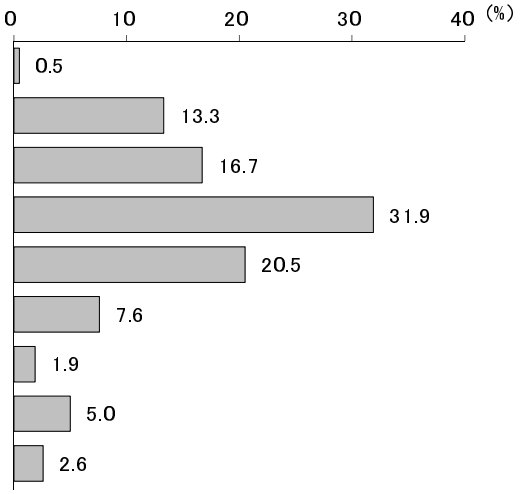
⑤　居住地区

	基数(人)	構成比(%)
1　白河地区	40	9.5
2　富岡地区	31	7.4
3　豊洲地区	116	27.6
4　小松橋地区	22	5.2
5　東陽地区	22	5.2
6　亀戸地区	58	13.8
7　大島地区	43	10.2
8　砂町地区	45	10.7
9　南砂地区	28	6.7
(無回答)	15	3.6
合　　計	420	100.0



⑥　居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1　１年未満	2	0.5
2　１～３年未満	56	13.3
3　３～５年未満	70	16.7
4　５～10年未満	134	31.9
5　10～15年未満	86	20.5
6　15～20年未満	32	7.6
7　20～30年未満	8	1.9
8　30年以上	21	5.0
(無回答)	11	2.6
合　　計	420	100.0



（２）乳児（０歳）と幼児（１～５歳）の身長・体重

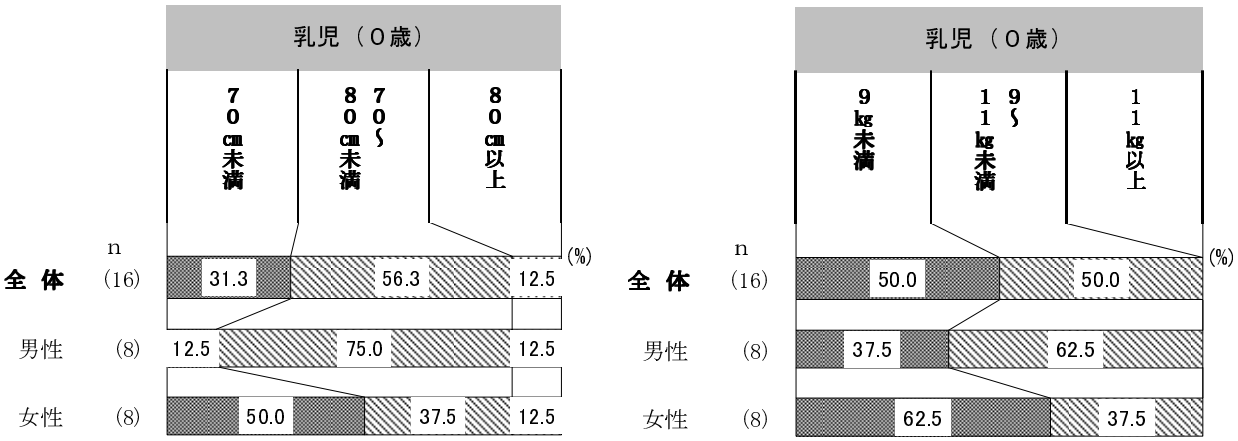
①乳児（０歳）の身長・体重

◇乳児の平均身長は71.1cm。平均体重は8.1kg

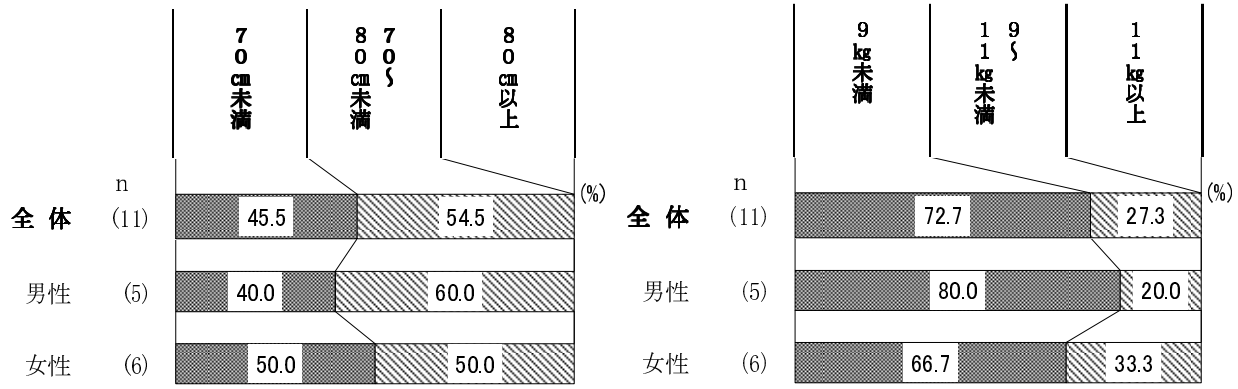
問４　お子さんのおよその身長と体重を整数でご記入ください。

＜図表Ⅴ－１－１＞乳児（０歳）の身長・体重
〔身長・体重〕

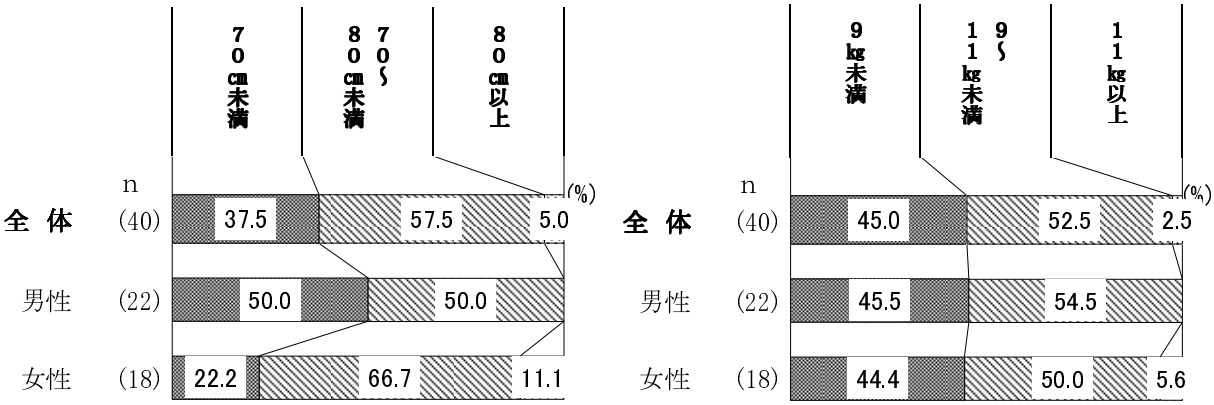
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



〔平均身長・体重〕

【平成29年度】

（cm）

	全体
全体	**71.1**
男性	72.5
女性	69.6

（kg）

全体
8.1
8.3
7.9

【平成19年度】

（cm）

	全体
全体	**71.2**
男性	70.4
女性	72.1

（kg）

全体
8.7
8.8
8.6

※「全体」には、太字で下線を施している。

乳児（０歳）の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。（図表Ｖ－１－１）

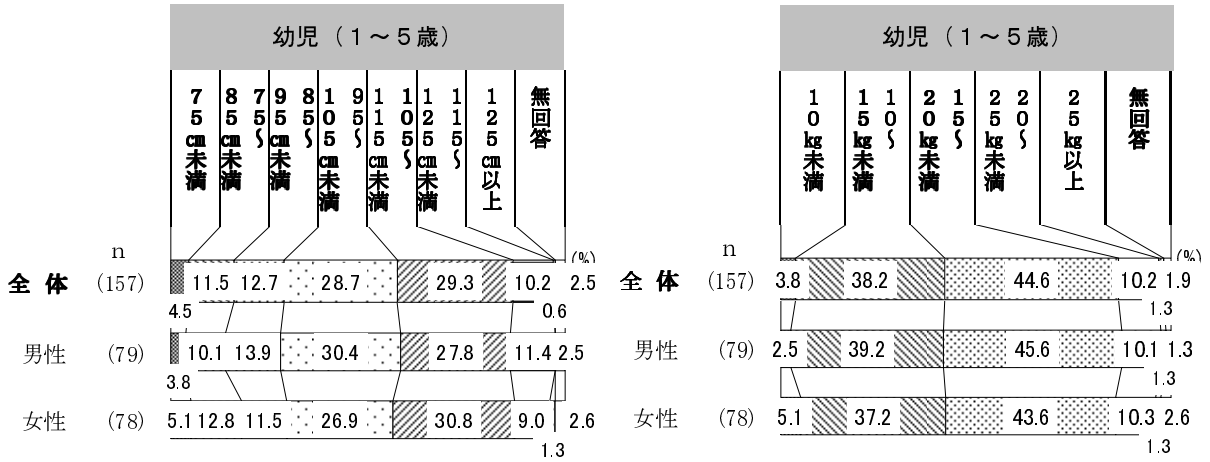
②幼児（１～５歳）の身長・体重

◇幼児の平均身長は99.1cm。平均体重は15.1kg

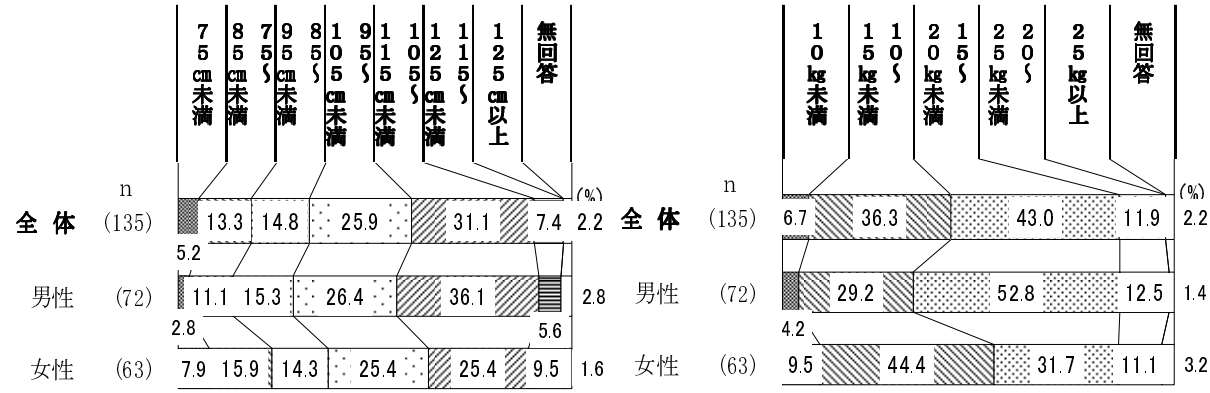
＜図表Ｖ－１－２＞幼児（１～５歳）の身長・体重

〔身長・体重〕

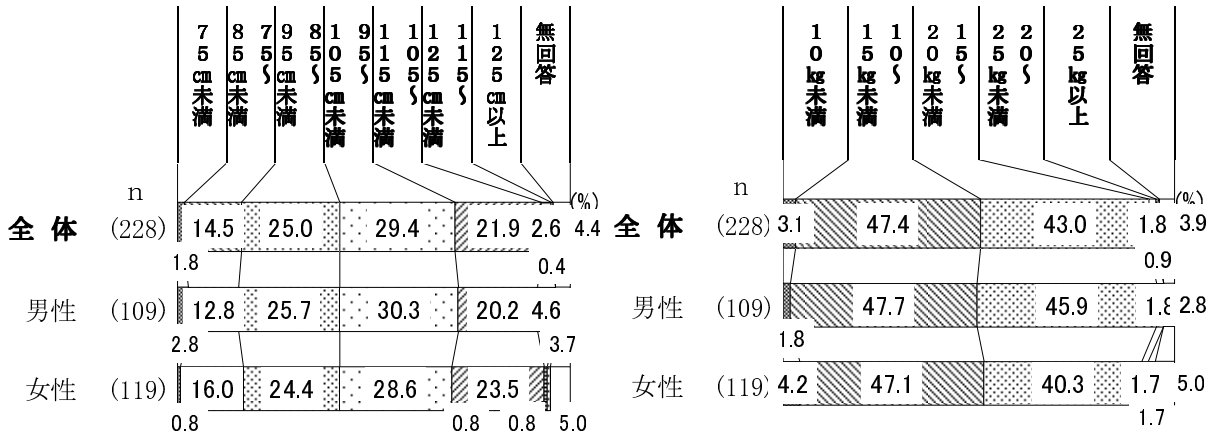
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



〔平均身長・体重〕

【平成29年度】

（cm）

	全体
全体	**99.1**
男性	99.4
女性	98.8

（kg）

全体
15.1
15.3
14.9

【平成19年度】

（cm）

	全体
全体	**95.6**
男性	95.4
女性	95.8

（kg）

全体
14.3
14.3
14.3

※「全体」には、太字で下線を施している。

幼児（１～５歳）の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。（図表Ｖ－１－２）

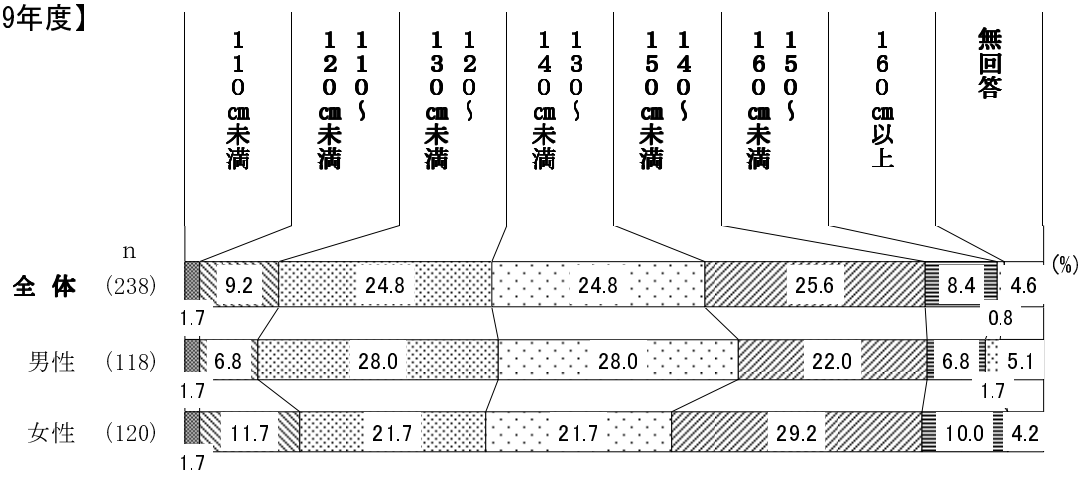
（３）小学生（６歳以上）の身長・体重

①小学生（６歳以上）の身長

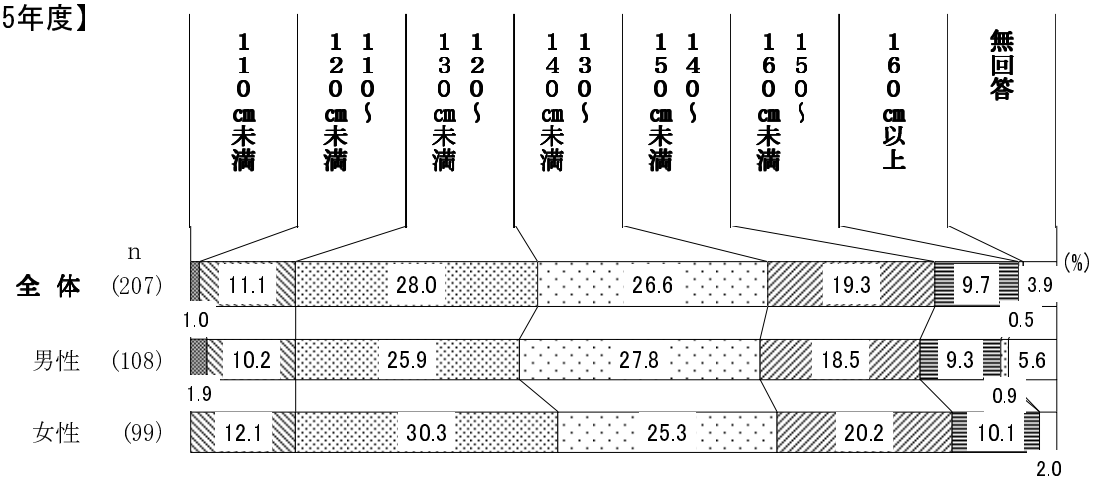
◇平均身長は年齢が上がるほど増加し、11歳で146.5cm

＜図表Ｖ－１－３＞小学生（６歳以上）の身長

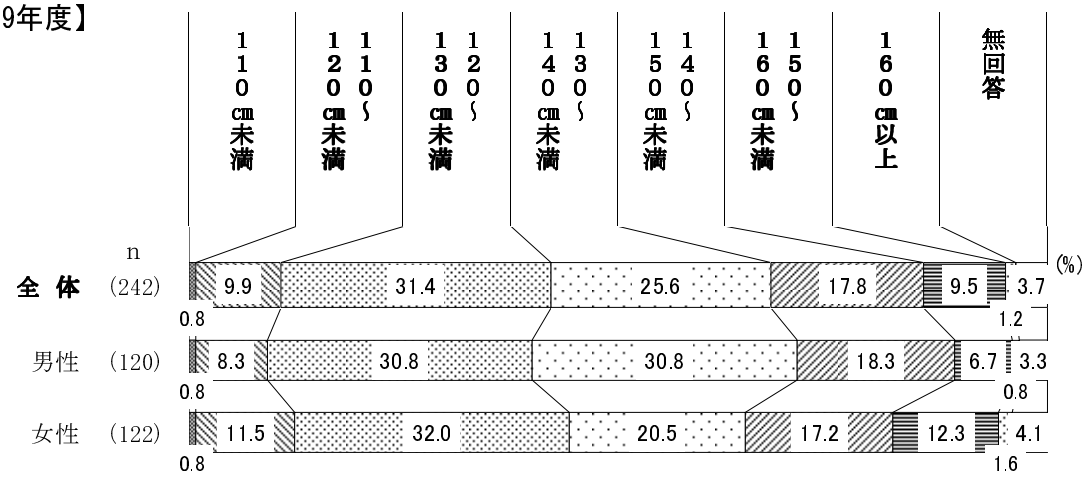
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



身長は平均身長が133.3cmで、構成比は「140cm～150cm未満」(25.6%) が２割台半ばで最も高く、次いで「130cm～140cm未満」(24.8%) と「120cm～130cm未満」(24.8%) が２割台半ばとなっている。

性別でみると、男性の平均身長は132.9cmで、女性の平均身長は133.7cmである。従って、男女の差は0.8cmである。また、構成比では、男性は「120～130cm未満」と「130～140cm未満」が約３割となっている。女性は「140～150cm未満」が約３割と最も高く、次いで「120～130ｃｍ未満」、「130～140cm未満」が２割を超えて高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体及び女性で「140～150cm未満」が増加傾向、「120～130cm未満」が減少傾向にある。「140～150cm未満」は平成19年度から全体で７ポイント、女性で12ポイント増加している。(図表Ｖ－１－３)

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－１－４＞

〔平均身長〕

(cm)

	全体	６歳	７歳	８歳	９歳	10歳	11歳
全体	**133.3**	**118.9**	**120.7**	**129.7**	**133.7**	**139.4**	**146.5**
男性	**132.9**	118.4	120.9	129.5	133.9	138.4	147.3
女性	**133.7**	119.4	120.5	129.9	133.5	141.4	145.9

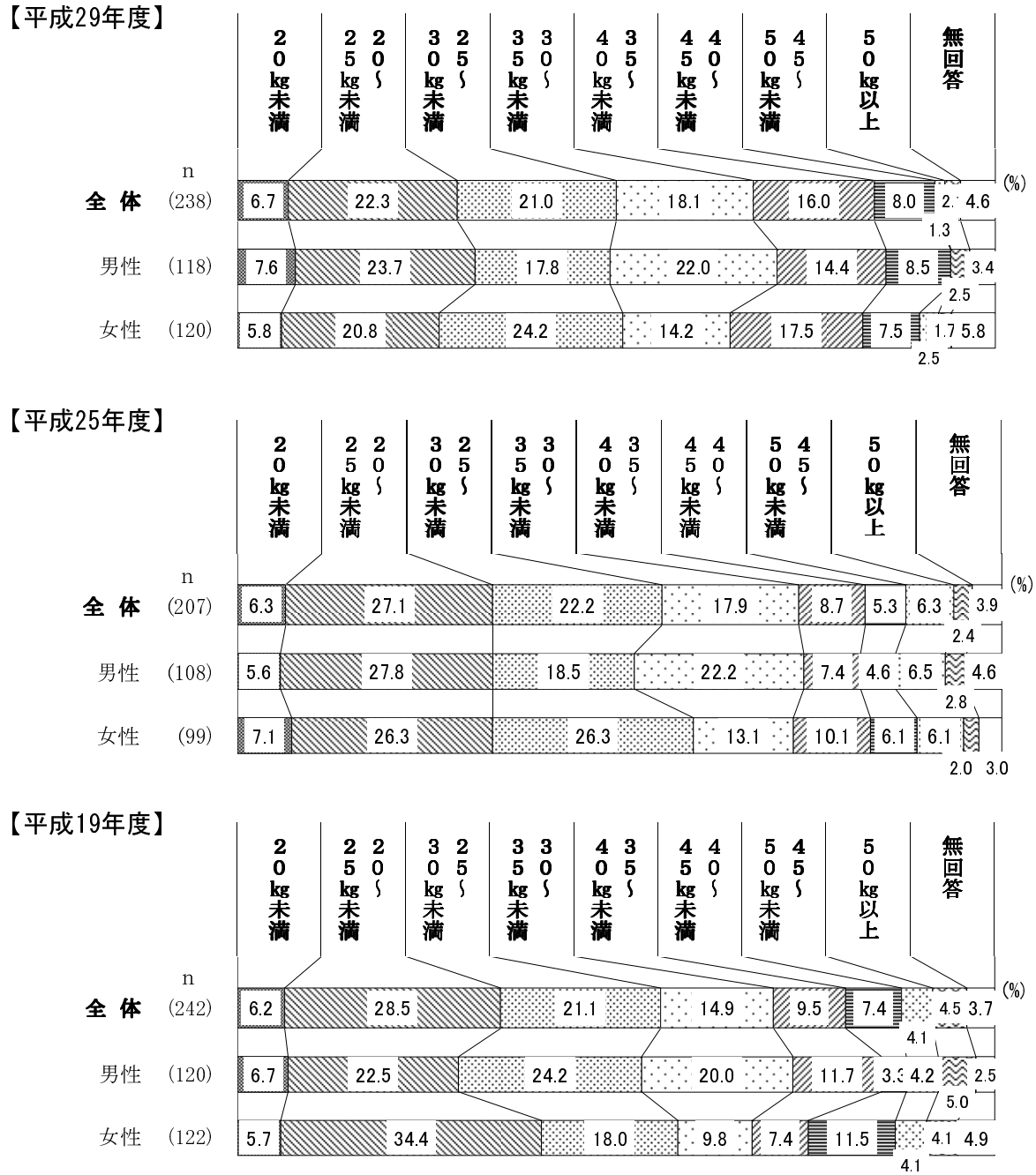
※「全体」には、太字で下線を施している。

男性の平均身長は、当然のことながら、年齢が上がるほど漸増し、11歳では147.3cmとなっている。高低差は28.9cmである。一方、女性の平均身長も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で145.9cmとなる。高低差は男性よりも大きく、26.5cmとなっている。(図表Ｖ－１－４)

②小学生（６歳以上）の体重

◇平均体重は年齢が上がるほど増加し、11歳で37.2kg

＜図表Ｖ－１－５＞小学生（６歳以上）の体重



体重は平均体重が29.4kgで、構成比は「20～25kg未満」（22.3％）が２割を超えて最も高く、次いで「25～30kg未満」（21.0％）が２割を超え、「30kg～35kg未満」（18.1％）が１割台半ばとなっている。

性別でみると、男性の平均体重は29.1kgで、女性の平均体重は29.7kgである。従って、男女の差は0.6kgとなっている。また、構成比では、男性は「20～25kg未満」が２割台半ばで最も高く、「25～30kg未満」が約２割、「30～35kg未満」が２割を超えて高くなっている。女性は「25～30kg未満」が２割台半ばと高く、次いで「20～25kg未満」が２割と高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、「35～40kg未満」が平成25年度から７ポイント増加している。性別では、男性は「35～40kg未満」が平成25年度から７ポイント増加している。女性は「35～40kg未満」が増加傾向、「20～25kg未満」が減少傾向にあり、「35～40kg未満」は平成19年度から10ポイント、平成25年度から７ポイント増加している。（図表Ｖ－１－５）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－１－６＞

〔平均体重〕

（kg）

	全体	６歳	７歳	８歳	９歳	10歳	11歳
全体	**29.4**	**21.5**	**22.8**	**27.0**	**29.2**	**33.2**	**37.2**
男性	**29.1**	21.1	22.8	27.3	29.7	32.5	36.6
女性	**29.7**	21.9	22.7	26.6	28.8	34.4	37.6

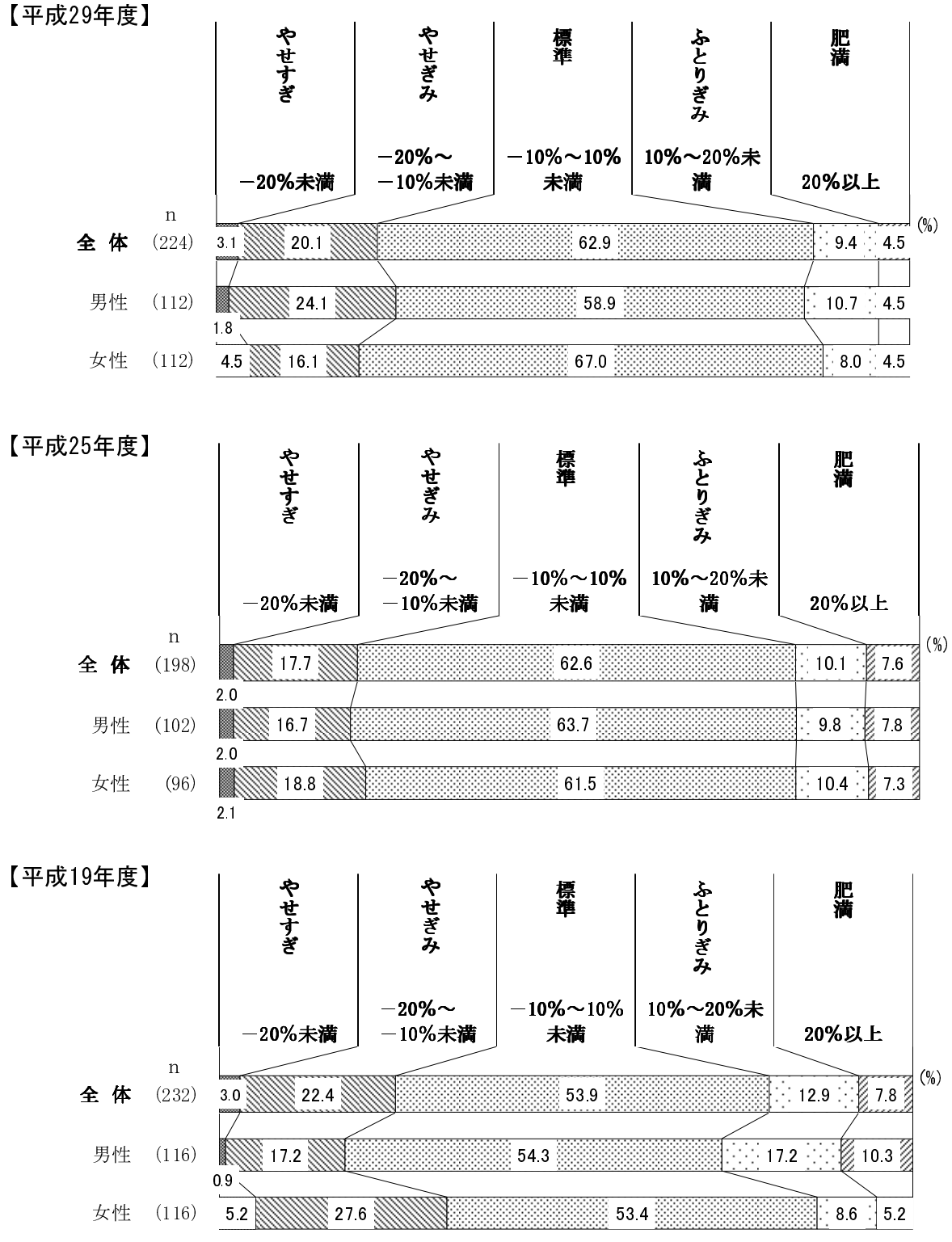
※「全体」には、太字で下線を施している。

男性の平均体重は、年齢が上がるほど漸増して、11歳で36.6kgとなっている。高低差は15.5kgである。一方、女性の平均体重も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で37.6kgとなる。高低差は15.7kgである。（図表Ｖ－１－６）

（４）小学生（６歳以上）の肥満度

◇平均肥満度は-1.7%

＜図表Ｖ－１－７＞小学生（６歳以上）の肥満度



小学生についても【中学・高校生調査】と同様に日比式を用いて肥満度を算出してみたところ、肥満度の平均は-1.7％である。構成比でみると、「標準：-10％～10％未満」（62.9％）が６割を超えて最も高く、次いで「やせぎみ：-20％～-10％未満」（20.1％）が２割、「ふとりぎみ：10％～20％未満」（9.4％）は約１割となっている。

性別でみると、男性全体の平均は-1.7％で、女性全体の平均は-1.8％である。構成比でみると、「やせぎみ」は男性が女性より８ポイント高く２割台半ば、「標準」は女性が男性より８ポイント高く約７割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男性は「やせぎみ」が平成25年度から７ポイント増加している。女性は「標準」が増加傾向、「やせぎみ」が減少傾向にあり、「標準」は平成19年度から13ポイント、平成25年度から５ポイント増加している。（図表Ⅴ－１－７）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－１－８＞

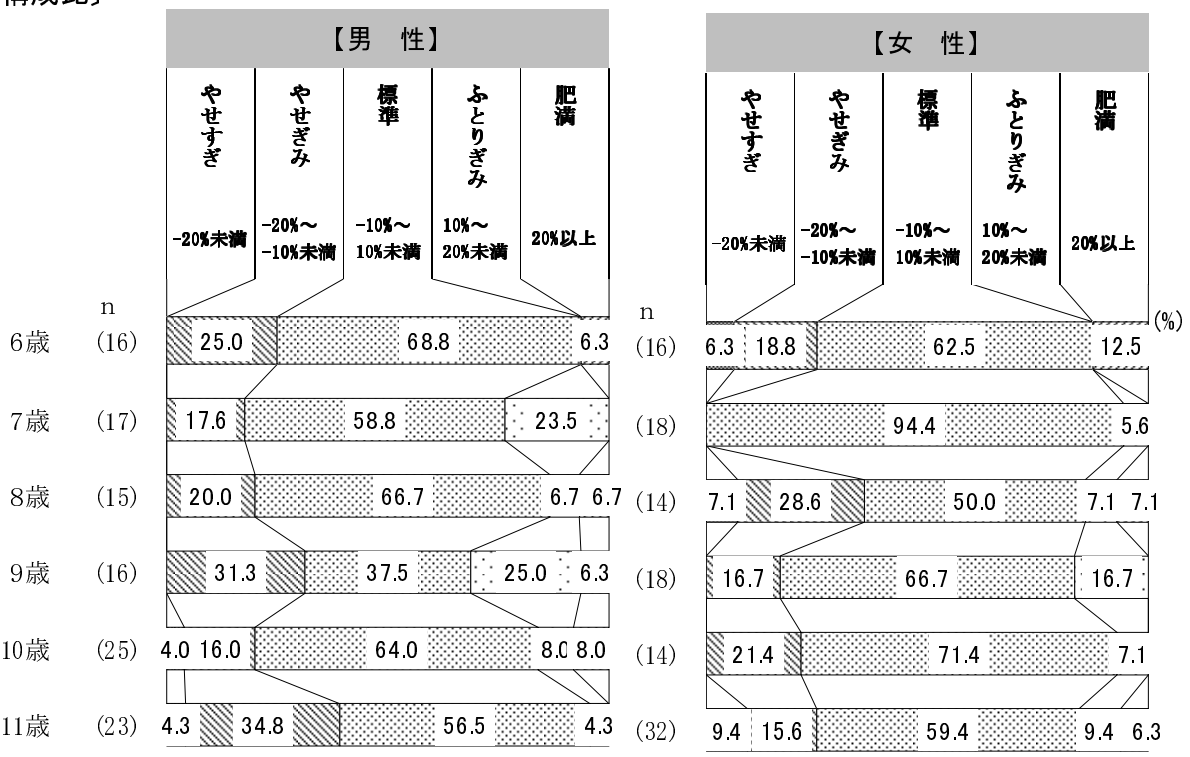
〔平均肥満度〕

(%)

	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	**-1.7**	**-2.0**	**-0.5**	**-0.5**	**-1.4**	**-1.3**	**-3.6**
男性	**-1.7**	-3.1	-0.4	0.7	0.5	-0.4	-5.9
女性	**-1.8**	-0.9	-0.5	-1.8	-3.1	-2.8	-2.0

※「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



※男女ともに人数の少ない年齢が多いが、『健康日本２１』の指標に合わせるため掲載する。

平均肥満度でみると、男性では８歳が最も高く0.7%、11歳で最も低く-5.9%となっている。女性では、すべての年齢でマイナスであり、９歳で最も低く-3.1%となっている。

構成比でみると、男性では「やせぎみ」は11歳が３割台半ばと高く、次いで９歳が３割を超えている。「標準」は６歳が約７割と高く、「ふとりぎみ」は７歳、９歳が２割台半ばとなっている。女性では、「やせぎみ」は８歳が約３割と高くなっている。「標準」は７歳が９割台半ばと最も高く、10歳が７割を超えて高くなっている。（図表Ｖ－１－８）

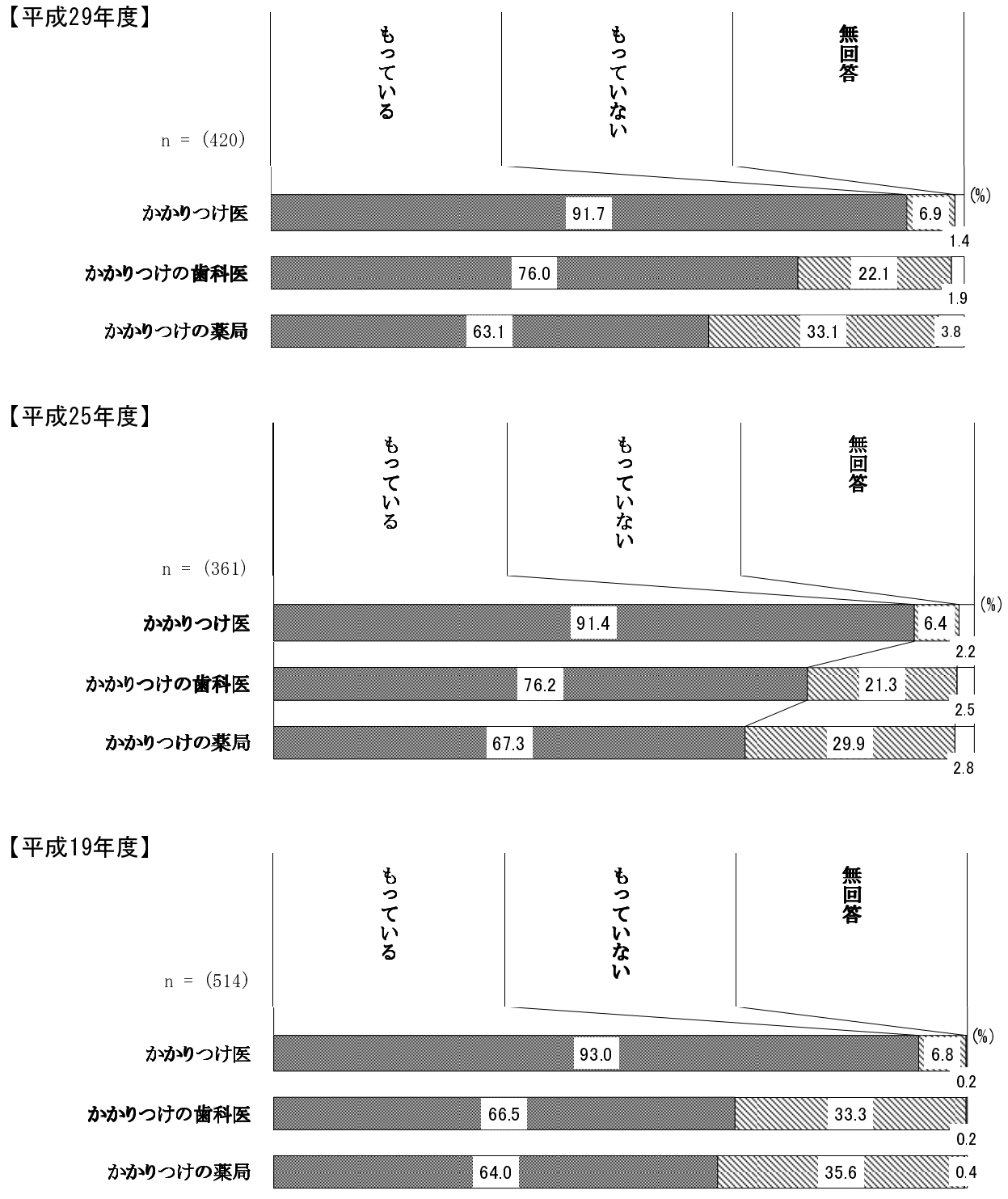
（５）かかりつけの医薬機関

◇“かかりつけ医”を「もっている」が９割を超えて高い

問５－１　お子さんは、かかりつけの医者・歯医者・薬局をもっていますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表Ⅴ－１－９＞かかりつけの医薬機関



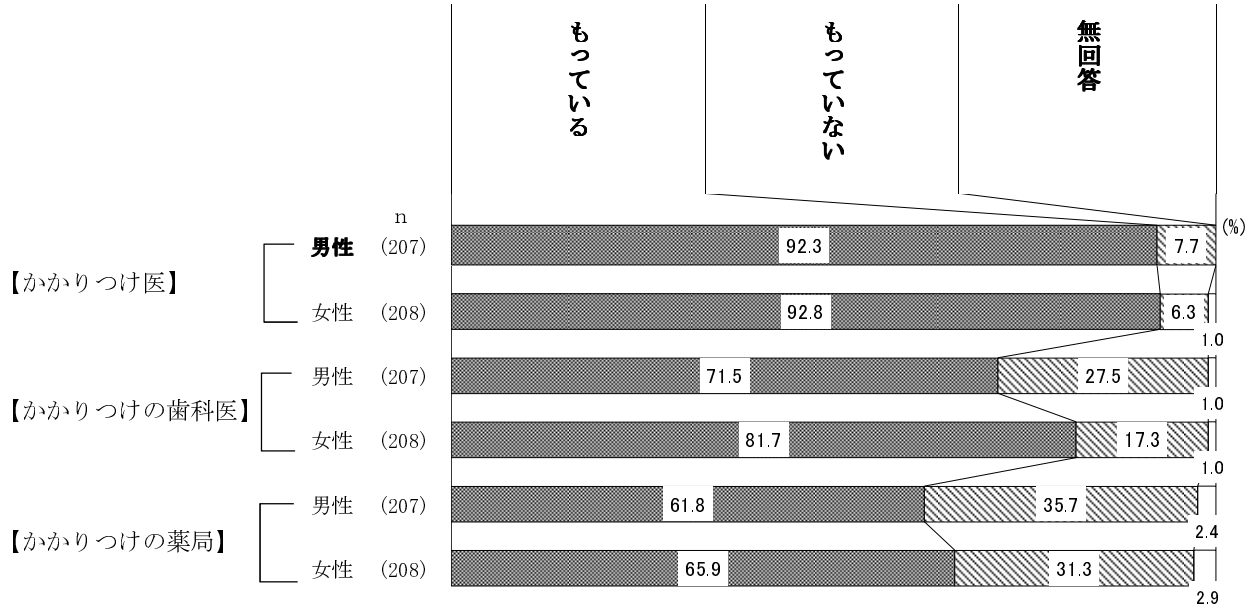
かかりつけの医薬機関について聞いたところ、“かかりつけ医”を「もっている」（91.7％）が９割を超え、“かかりつけの歯科医”を「もっている」（76.0％）が７割台半ば、“かかりつけの薬局”を「もっている」（63.1％）が６割台半ばとなっており、いずれも「もっていない」を上回っている。

過去の調査結果と比較しても、特に大きな違いはみられない。（図表Ｖ－１－９）

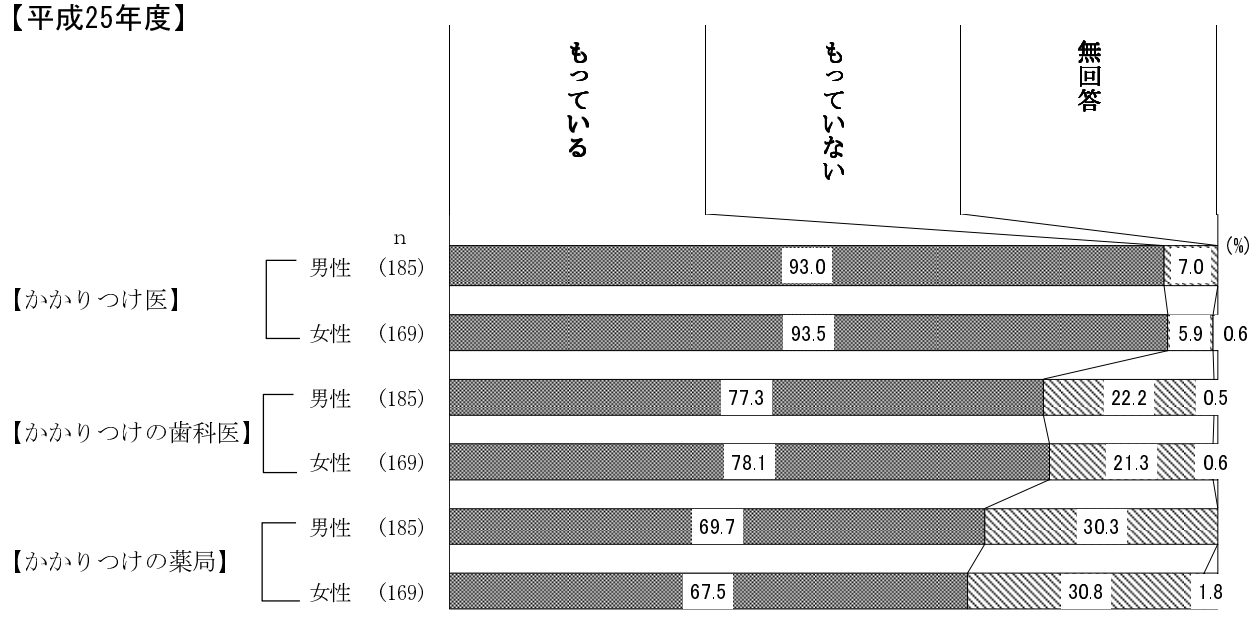
【性別】

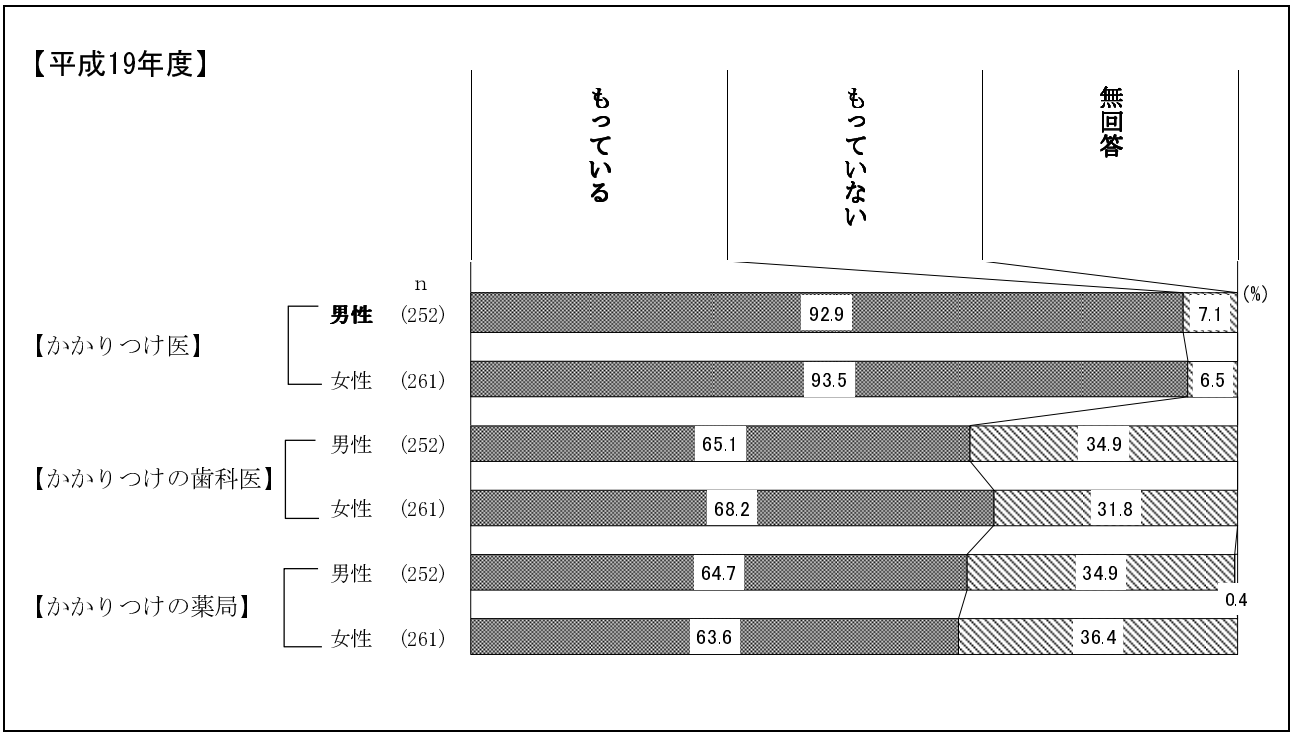
＜図表Ｖ－１－10＞

【平成29年度】



【平成25年度】





性別では、“かかりつけの歯科医”を「もっている」は、女性が男性より10ポイント高く８割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”には大きな違いはみられない。“かかりつけの歯科医”は、男性で平成25年度から「もっている」が５ポイント減少し、「もっていない」が５ポイント増加している。“かかりつけの薬局”は、男性で平成25年度から「もっている」が７ポイント減少し、「もっていない」が５ポイント増加している。(図表Ｖ－１－10)

（６）かかりつけの医薬機関を選んだ理由

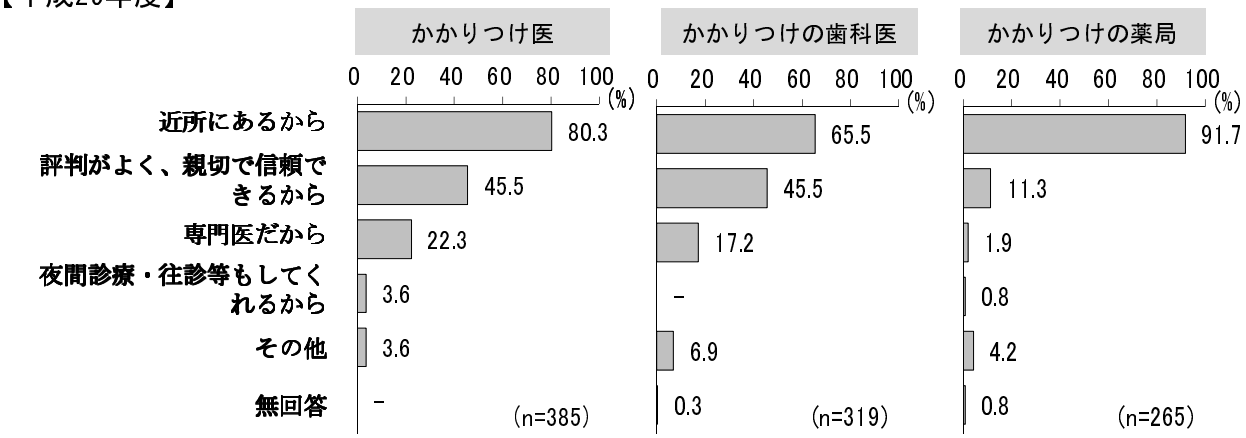
◇いずれの医薬機関も「近所にあるから」が最も大きな理由

（問５－１で、１つでも「１　もっている」とお答えの方に）

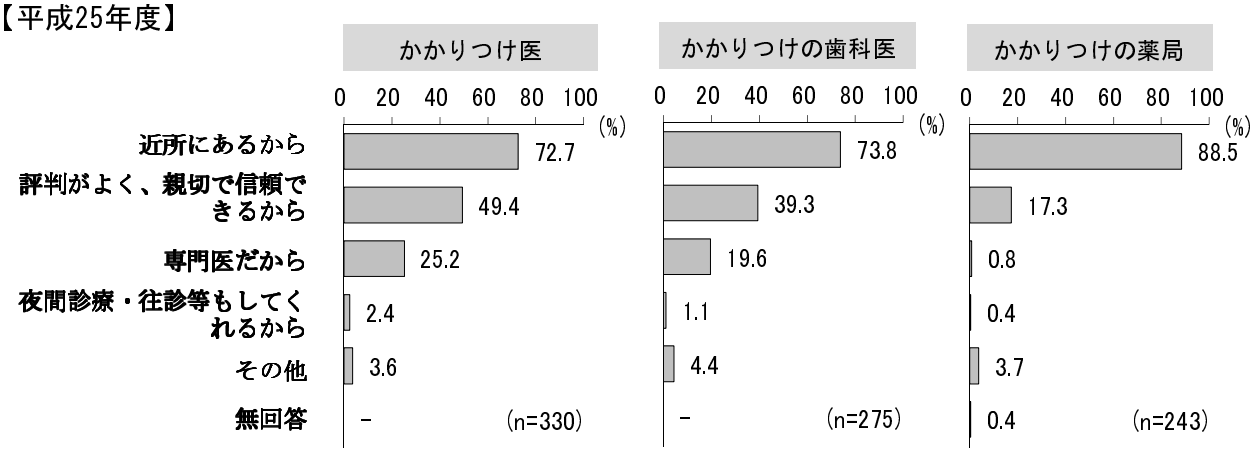
問５－２　どのような理由で選びましたか。（○はそれぞれいくつでも）

＜図表Ⅴ－１－11＞かかりつけの医薬機関を選んだ理由

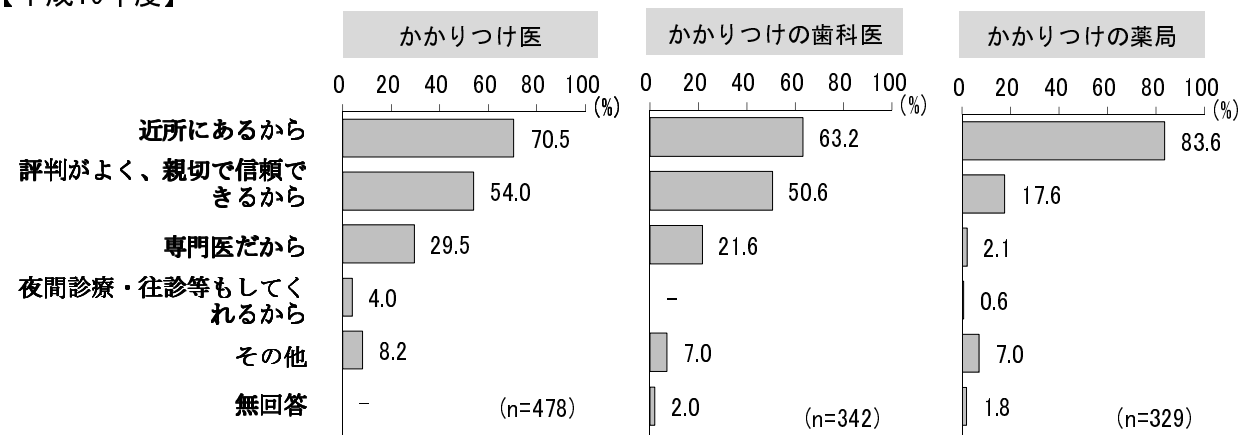
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



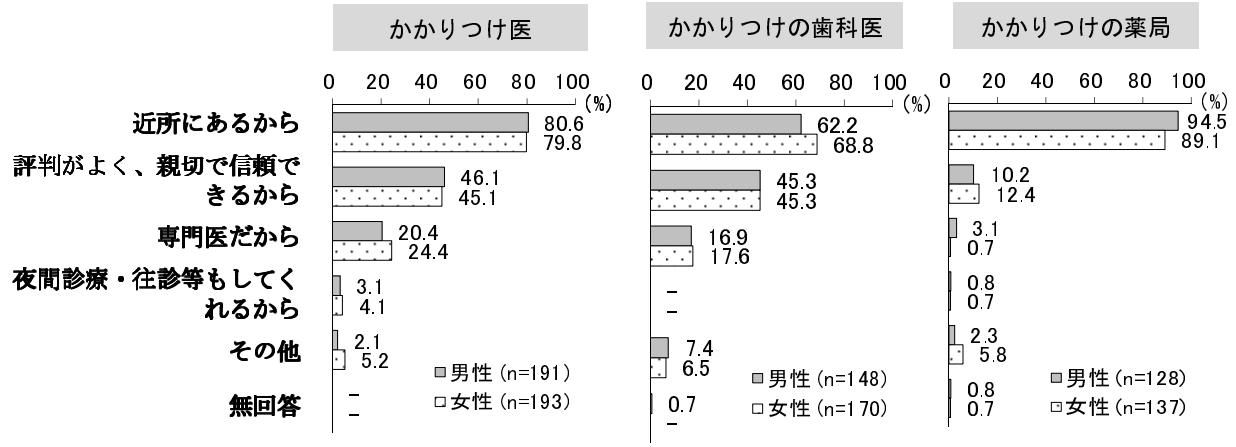
問６－１で、１つでも「１　もっている」と回答した人に選んだ理由を聞いたところ、いずれの医薬機関とも「近所にあるから」が最も高くなっており、“かかりつけの薬局”（91.7％）が９割を超え、“かかりつけ医”（80.3％）が８割、“かかりつけの歯科医”（65.5％）が６割台半ばとなっている。次いで、いずれの医薬機関とも「評判がよく、親切で信頼できるから」が、“かかりつけ医”（45.5％）と“かかりつけの歯科医”（45.5％）が４割台半ば、“かかりつけの薬局”（11.3％）は１割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”は「近所にあるから」が増加傾向にあり、平成19年度から９ポイント、平成25年度から７ポイント増加している。一方、「評判がよく、親切で信頼できるから」と「専門医だから」は減少傾向にある。“かかりつけの歯科医”は平成25年度から「評判がよく、親切で信頼できるから」が６ポイント増加し、「近所にあるから」が８ポイント減少している。“かかりつけの薬局”は「近所にあるから」が増加傾向にあり、平成19年度から８ポイント増加している。（図表Ｖ－１－11）

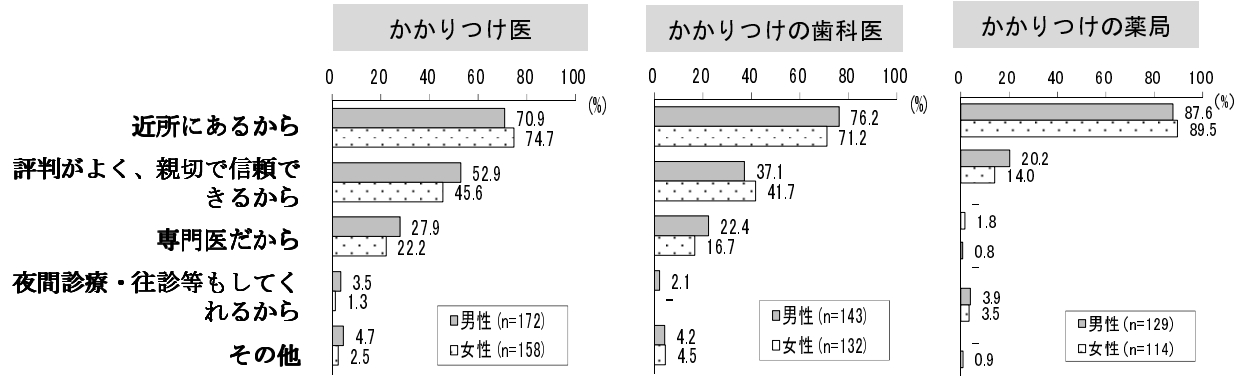
【性別】

＜図表Ｖ－１－12＞

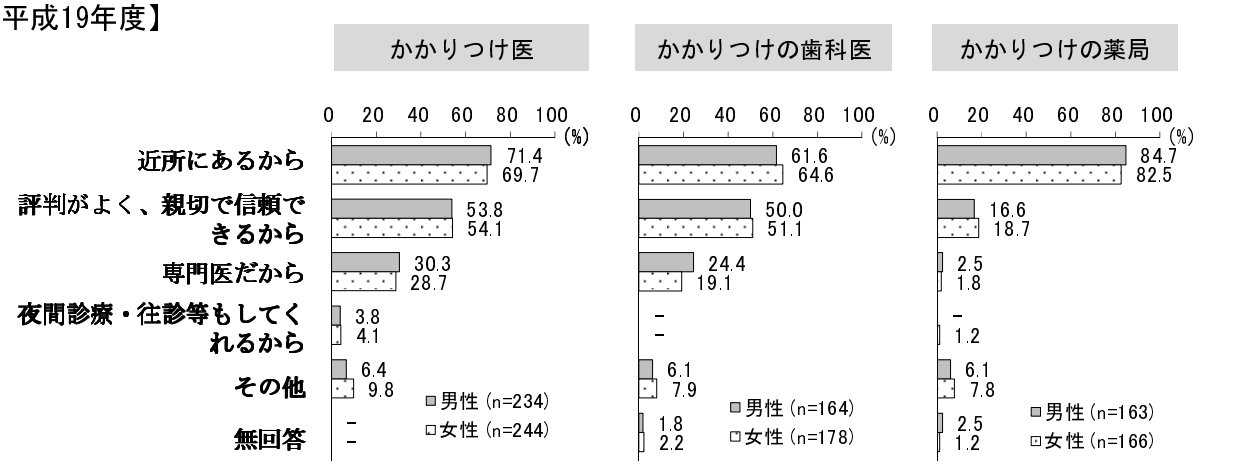
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



性別でみると、“かかりつけ医”は特に大きな違いはみられない。“かかりつけの歯科医”では、「近所にあるから」は女性が男性より６ポイント高く約７割となっている。“かかりつけの薬局”では、「近所にあるから」は男性が女性より５ポイント高く９割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”は、男性で「専門医だから」と「評判がよく、親切で信頼できるから」が減少傾向にあり、平成19年度から前者は９ポイント、後者は７ポイント減少している。一方、女性で「近所にあるから」が平成25年度から５ポイント増加している。“かかりつけの歯科医”は、男性で平成25年度から「評判がよく、親切で信頼できるから」が８ポイント増加し、「近所にあるから」が14ポイント、「専門医だから」が５ポイント減少している。“かかりつけの薬局”は、男性で「近所にあるから」が増加傾向にあり、平成19年度から９ポイント、平成25年度から６ポイント増加している。一方、「評判がよく、親切で信頼できるから」は平成25年度から10ポイント減少している。（図表Ⅴ－１－12）

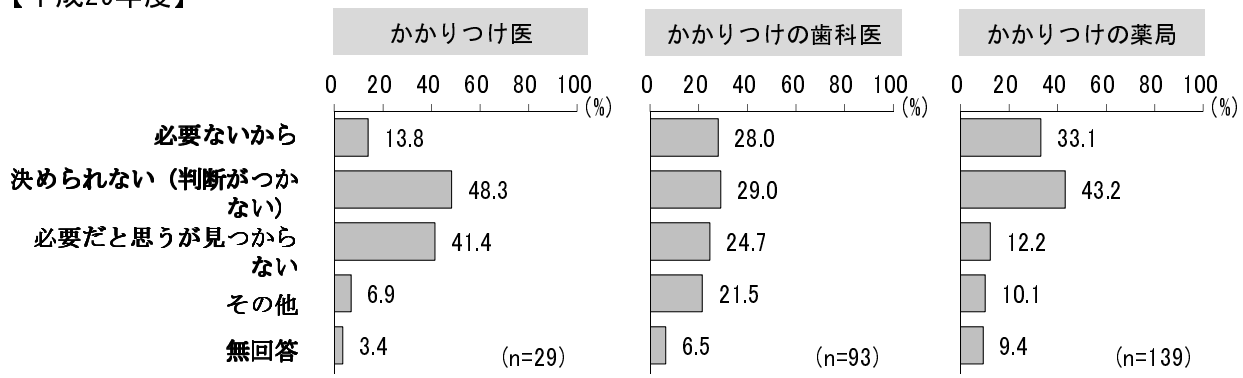
（７）かかりつけの医薬機関をもっていない理由

◇“かかりつけ医”は「決められない」が約５割で目立つ

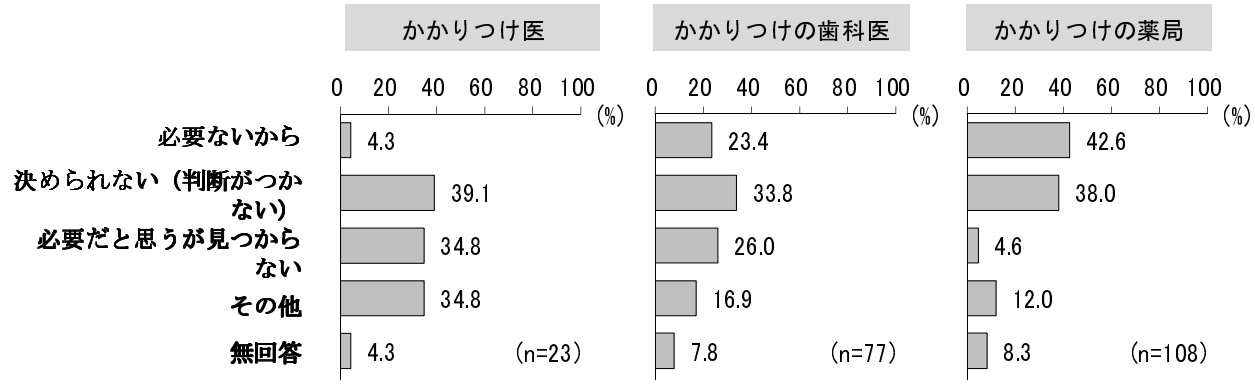
（問５－１で、１つでも「２　もっていない」とお答えの方に）
問５－３　もっていない理由に○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

＜図表Ⅴ－１－13＞かかりつけの医薬機関をもっていない理由

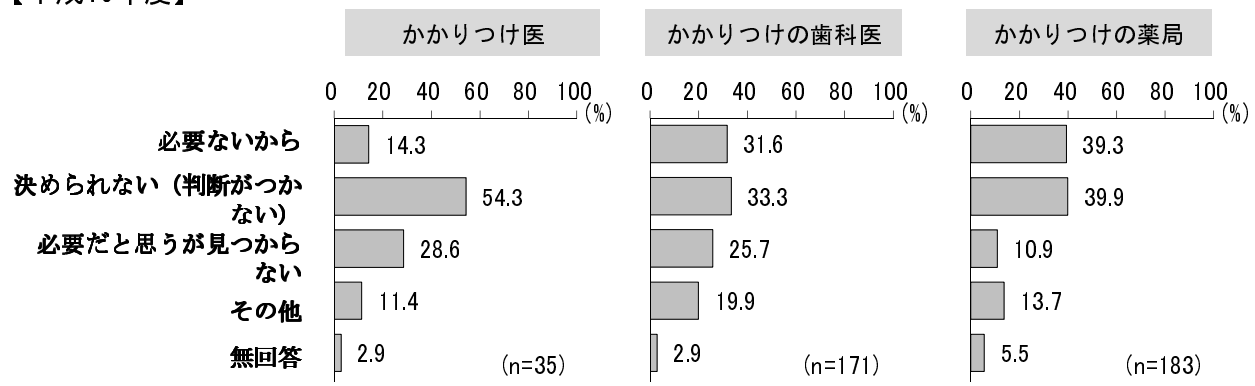
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



※“かかりつけ医”は、人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

問６－１で、１つでも「２　もっていない」と回答した人にその理由を聞いたところ、いずれの医療機関とも「決められない（判断がつかない)」が最も高く、“かかりつけ医”（48.3%）が約５割、“かかりつけの薬局”（43.2%）が４割台半ば、“かかりつけの歯科医”（29.0%）が約３割となっている。次いで「必要ないから」は“かかりつけの歯科医”（28.0%）で約３割、“かかりつけの薬局”(33.1%)で３割半ばとなっている。「必要だと思うが見つからない」は“かかりつけ医”(41.4%)で４割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”はｎが少ないため、参考までに図示するに留める。“かかりつけの歯科医”は、特に大きな違いはみられない。“かかりつけの薬局”は、平成25年度から「必要ないから」が９ポイント減少し、「必要だと思うが見つからない」が７ポイント、「決められない（判断がつかない)」が５ポイント増加している。(図表Ⅴ－１－13)

【性別】

＜図表Ⅴ－１－14＞

【平成29年度】

【平成25年度】

【平成19年度】

※“かかりつけ医”は、男女ともに人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

性別でみると、“かかりつけ医”では、「決められない（判断がつかない）」は女性が男性より37ポイント高く約７割、「必要だと思うが見つからない」は男性が女性より19ポイント高く５割となっている。“かかりつけの歯科医”では、「必要だと思うが見つからない」は男性が女性より17ポイント高く３割を超え、「必要ないから」は女性が男性より17ポイント高く約４割となっている。“かかりつけの薬局”では、「必要ないから」は女性が男性より10ポイント高く約４割となっている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”はｎが少ないため、参考までに図示するに留める。“かかりつけの歯科医”は、男性で平成25年度から「必要だと思うが見つからない」が７ポイント増加し、「必要ないから」が８ポイント、「決められない（判断がつかない）」が６ポイント減少している。女性は平成25年度から「必要ないから」が22ポイント増加し、「必要だと思うが見つからない」が13ポイント減少している。“かかりつけの薬局”は、男性で平成25年度から「決められない（判断がつかない）」と「必要だと思うが見つからない」がいずれも８ポイント増加し、「必要ないから」が19ポイント減少している。女性は「必要だと思うが見つからない」が平成25年度から６ポイント増加している。（図表Ｖ－１－14）

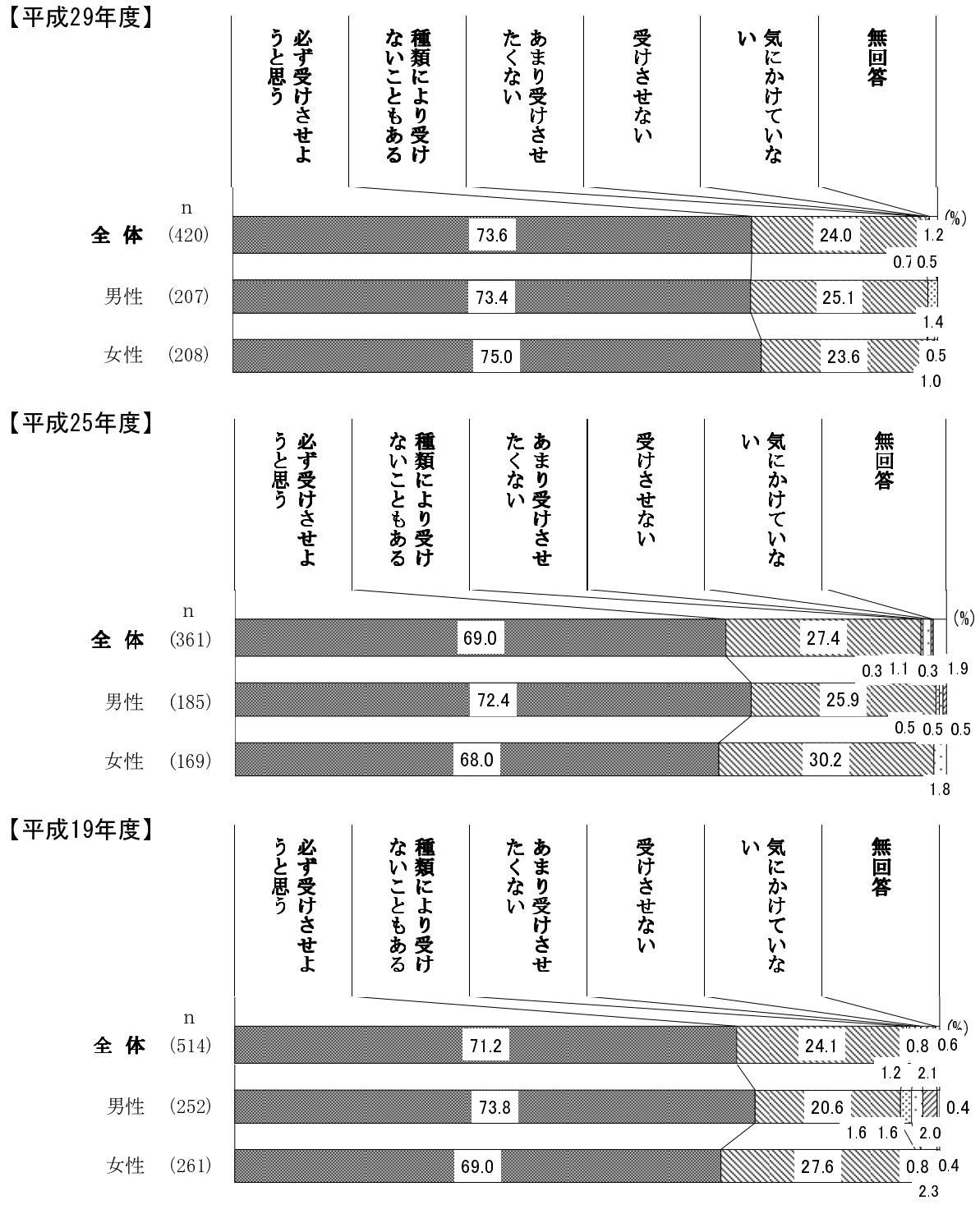
（８）予防接種の心がけ

◇「必ず受けさせようと思う」が７割台半ばで最も高い

問６　あなたは、お子さんに定期的に予防接種を受けさせるよう心がけていますか。

（○は１つだけ）

＜図表Ⅴ－１－15＞予防接種の心がけ



予防接種の心がけについて聞いてみたところ、「必ず受けさせようと思う」（73.6％）が７割台半ば、「種類により受けないこともある」（24.0％）が２割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、女性は平成25年度から「必ず受けさせようと思う」が７ポイント増加し、「種類により受けないこともある」が６ポイント減少している。（図表Ｖ－１－15）

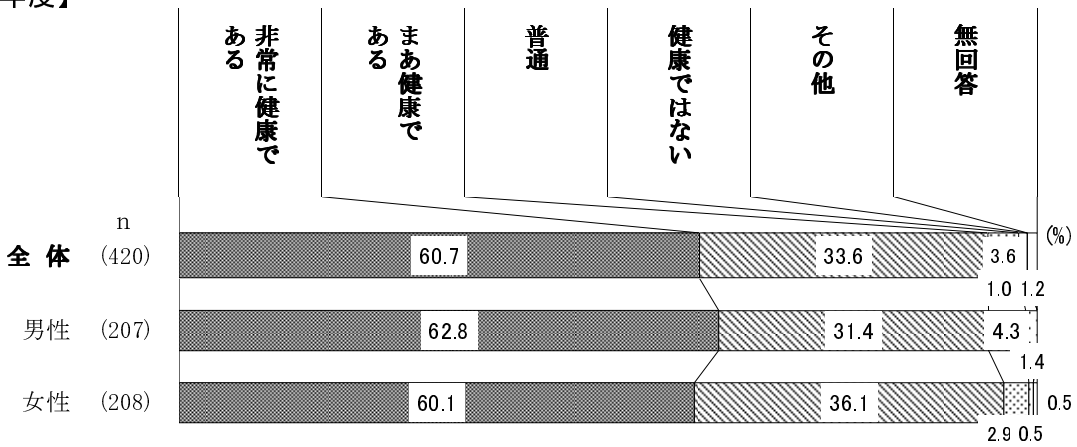
（９）こどもの健康状態（主観的）

◇《健康である》が９割台半ばを占める

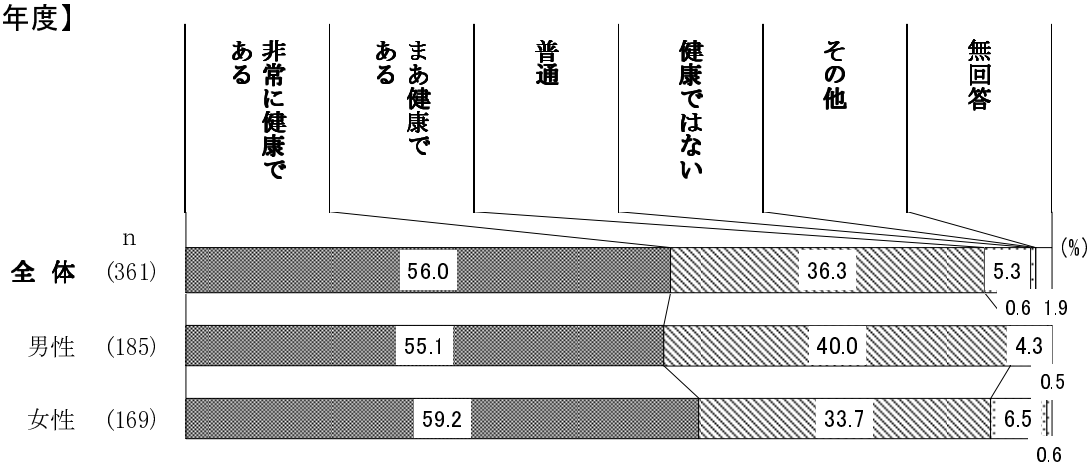
問７　あなたのお子さんのふだんの健康状態についてどう思いますか。（○は１つだけ）

＜図表Ⅴ－１－16＞こどもの健康状態（主観的）

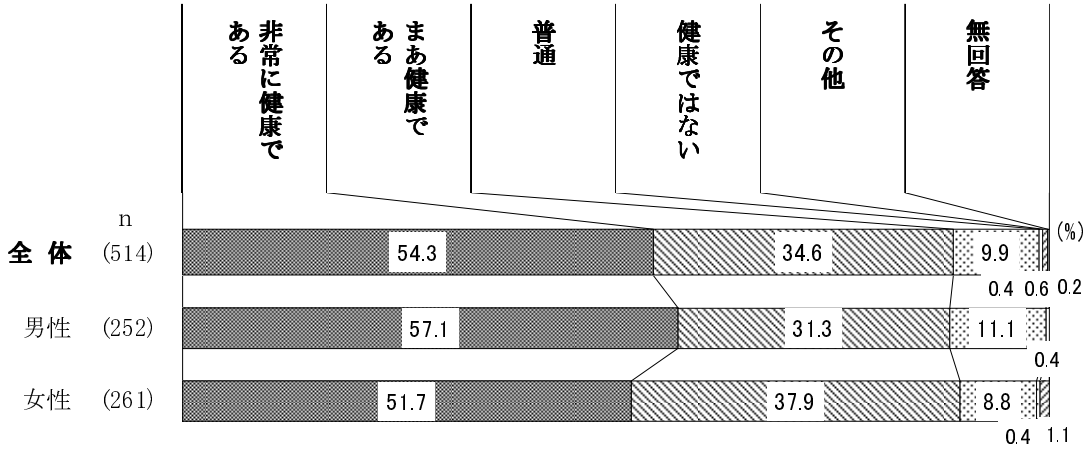
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



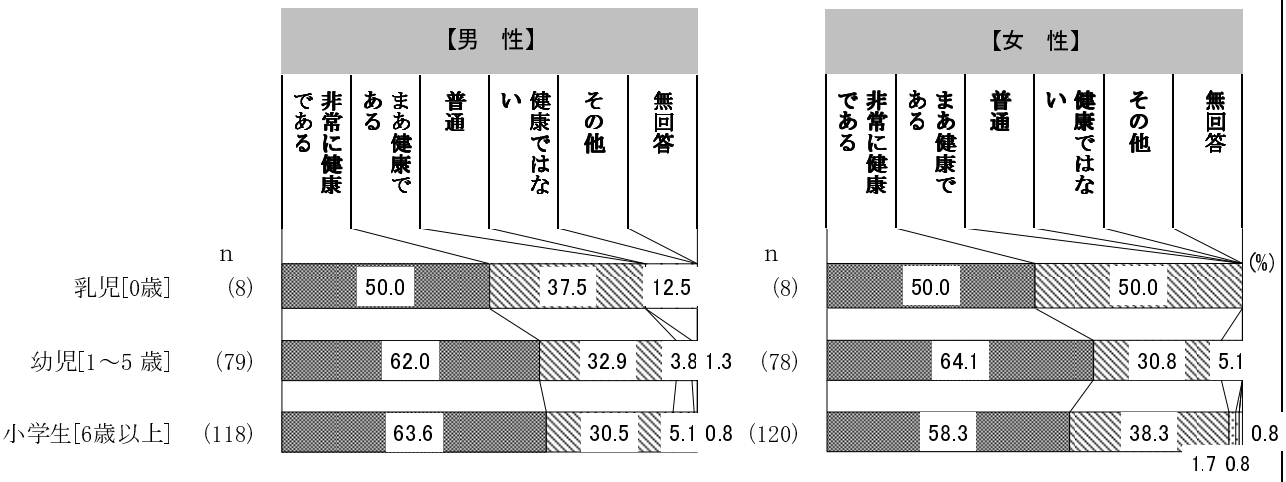
現在の健康状態（主観的）を聞いてみたところ、「非常に健康である」（60.7%）と「まあ健康である」(33.6%)を合わせた《健康である》(94.3%)は９割台半ばとなっている。一方、「普通」(3.6%)と「健康ではない」（1.0%）は１割を下回っている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体及び女性で《健康である》が増加傾向にあり、平成19年度から全体で５ポイント、女性で６ポイント増加している。男性は平成25年度から《健康である》では大きな違いはないが、「非常に健康である」が７ポイント増加し、「まあ健康である」が８ポイント減少している。（図表Ｖ－１－16）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－１－17＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

男性では「非常に健康である」は、小学生が６割台半ばと高くなっている。《健康である》は幼児、小学生ともに９割台半ばと高い。女性では「非常に健康である」は幼児が６割台半ばと高くなっている。《健康である》は、幼児、小学生ともに９割台半ばと高くなっている。（図表Ｖ－１－17）

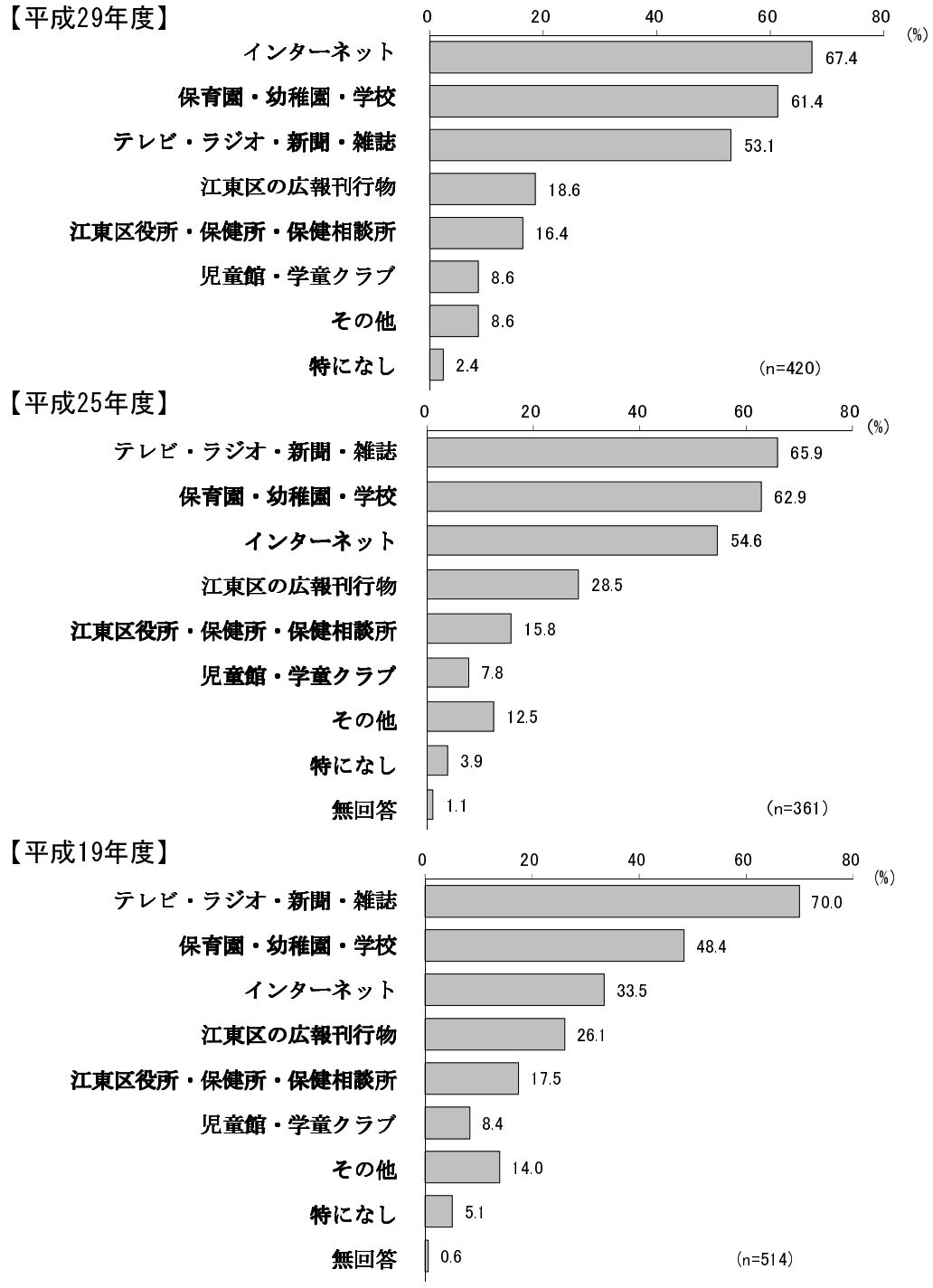
２　健康づくりについて

（１）こどもの健康に関する情報源

◇「インターネット」が約７割で最も高い

問８　あなたは、お子さんの健康に関する知識や情報をどのようなところから得ていますか。
（○はいくつでも）

＜図表Ｖ－２－１＞こどもの健康に関する情報源



こどもの健康に関する情報源を聞いたところ、「インターネット」(67.4%)が約７割で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(61.4%)が６割を超え、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(53.1%)が５割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、「インターネット」が増加傾向にあり、平成19年度から33ポイント、平成25年度から12ポイント増加している。一方、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」は減少傾向にあり、平成19年度から16ポイント、平成25年度から12ポイント減少している。「江東区の広報刊行物」も平成25年度から９ポイント減少している。(図表Ⅴ－２－１)

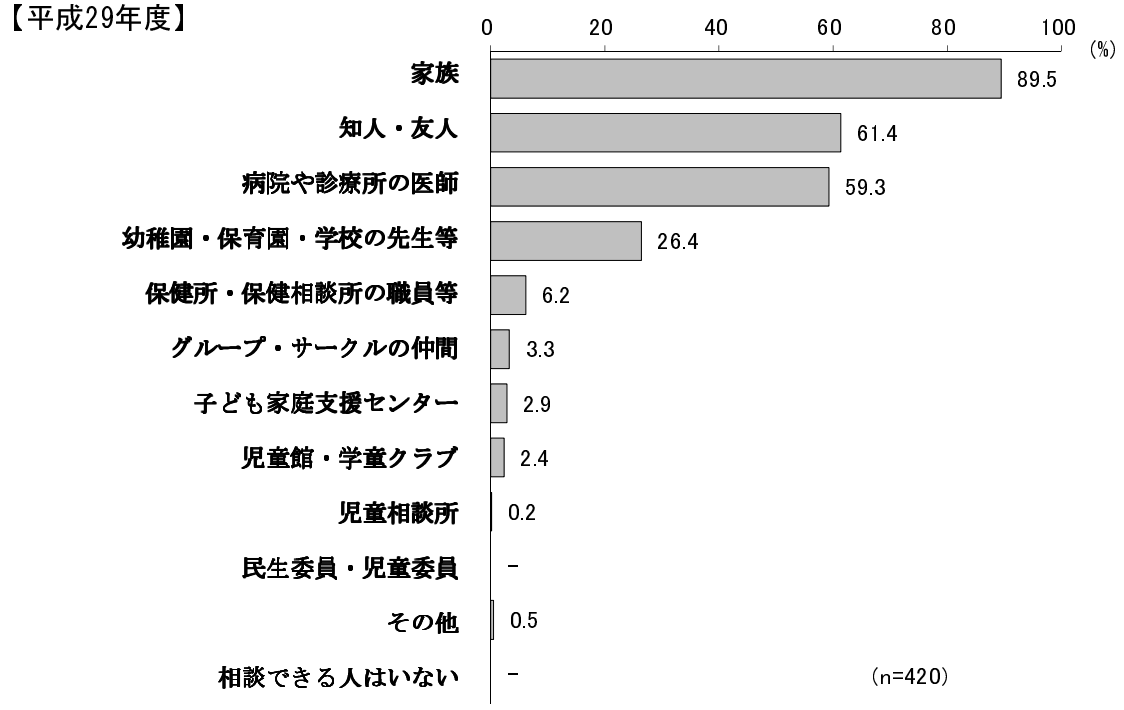
（２）こどもの健康に関する相談相手

◇「家族」が約９割で最も高く、次いで「知人・友人」の６割を超える

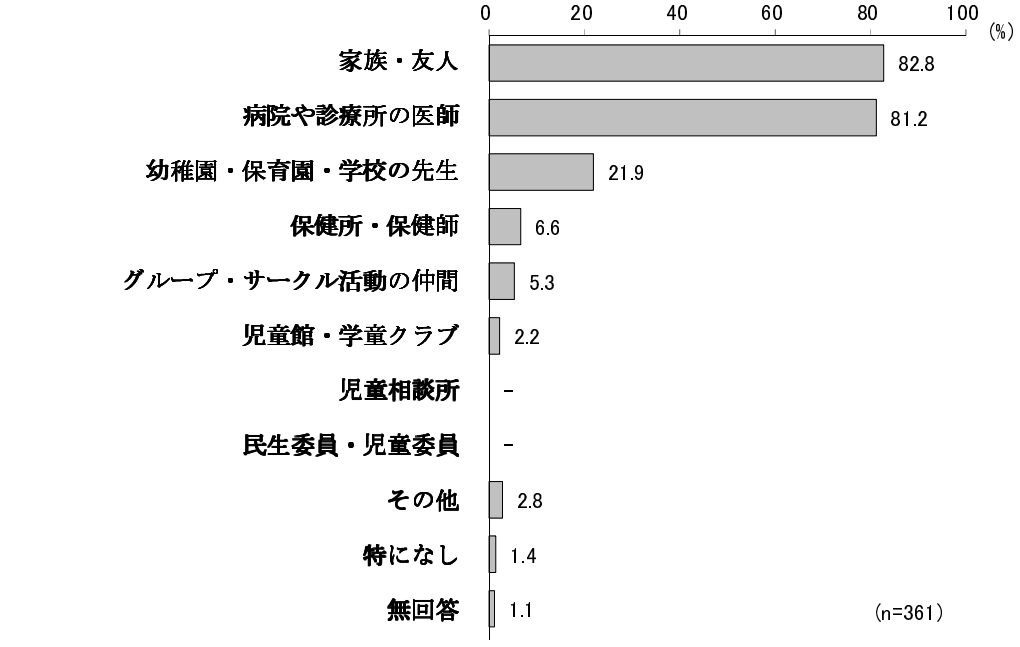
問９　お子さんの健康に関することを誰に相談しますか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅴ－２－２＞こどもの健康に関する相談相手

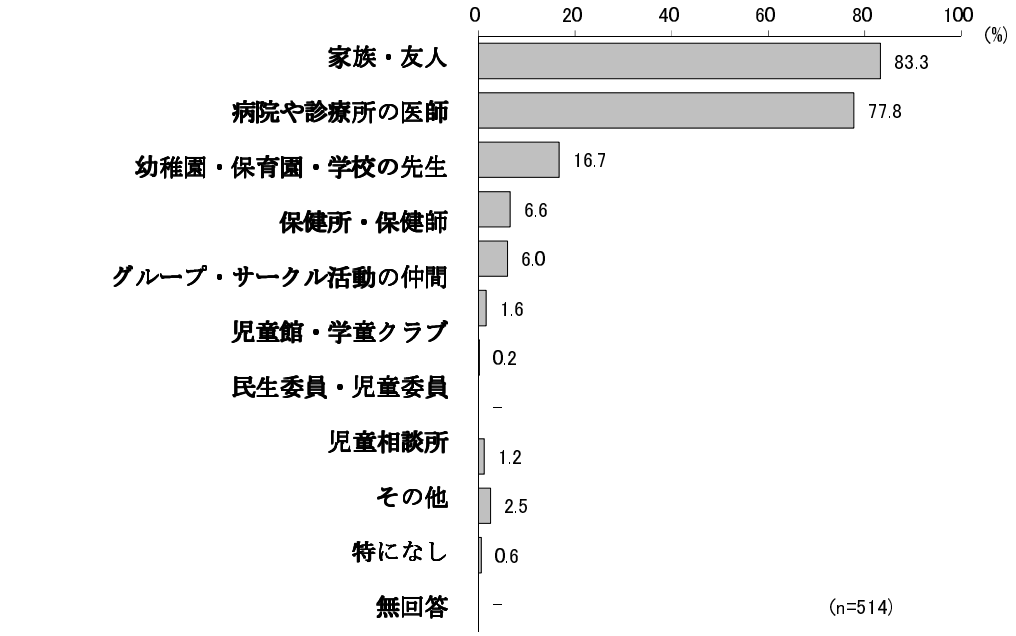
【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



【平成19年度】（参考）



こどもの健康に関する相談相手としては、「家族」（89.5％）が約９割で最も高く、次いで「友人・知人」（61.4％）が６割を超えて高く、「病院や診療所の医師」（59.3％）が約６割となっている。

過去の調査結果との比較については、選択肢数が異なることから、参考までに図示するに留める。（図表Ｖ－２－２）

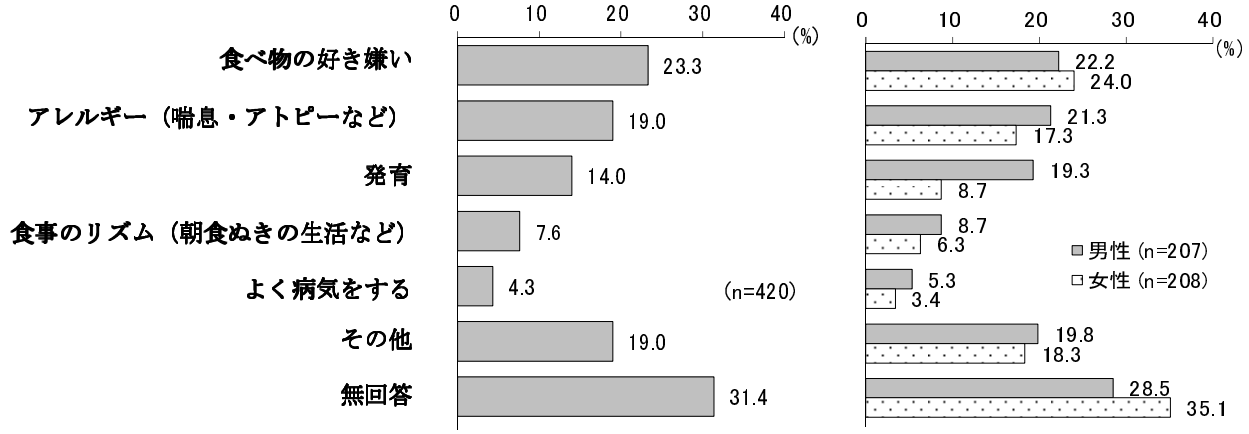
（３）こどもの健康状態についての悩み

◇「食べ物の好き嫌い」が２割台半ば、「アレルギー（喘息・アトピーなど）」が約２割

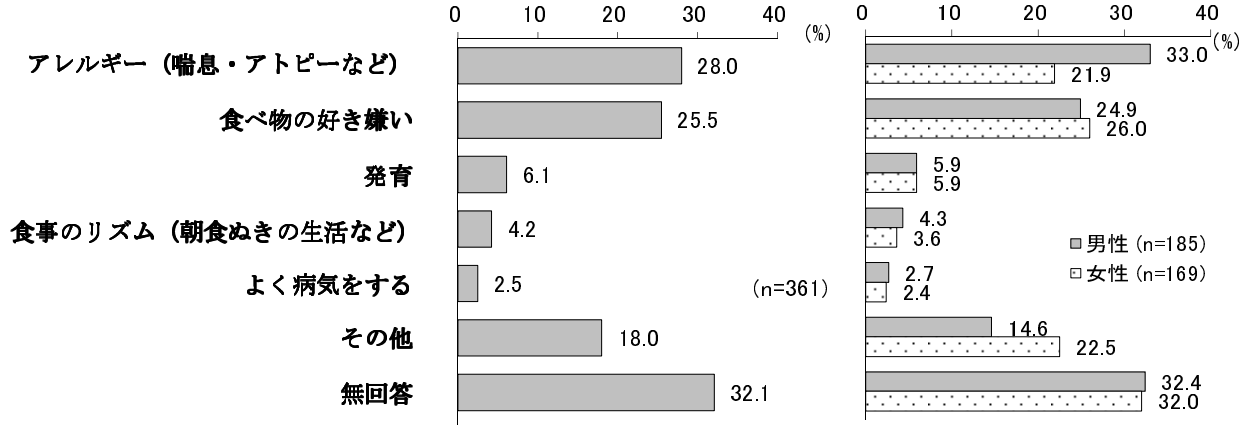
問10　あなたのお子さんの健康状態について困ったり悩んだりしていることはありますか。
（○はいくつでも）

＜図表Ｖ－２－３＞こどもの健康状態についての悩み

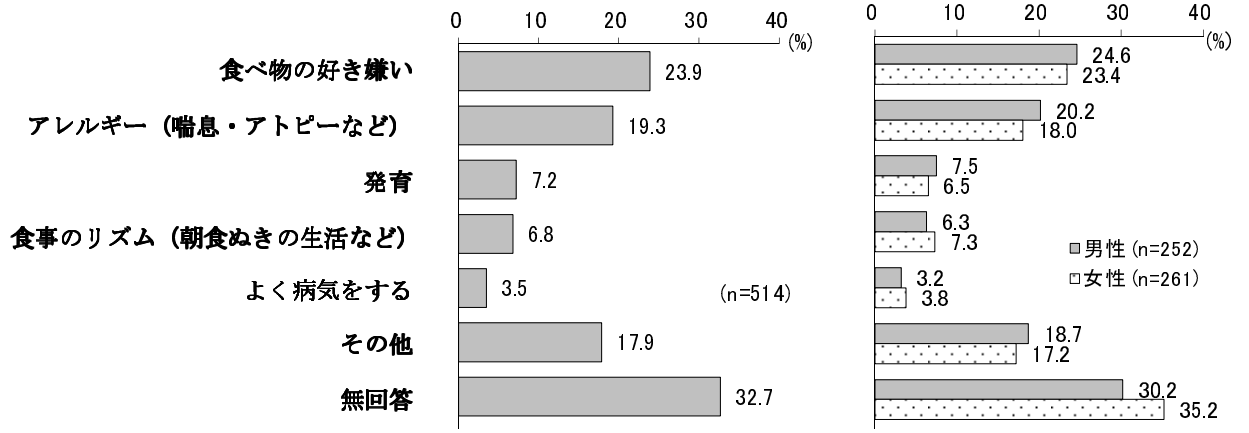
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



こどもの健康状態についての悩みを聞いたところ、「食べ物の好き嫌い」（23.3％）が２割台半ばで最も高く、次いで「アレルギー（喘息・アトピーなど）」（19.0％）が約２割、「発育」（14.0％）が１割台半ばとなっている。

性別では、「発育」は男性が女性より10ポイント高く約２割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では、平成25年度から「アレルギー（喘息・アトピーなど）」が９ポイント減少し、「発育」が７ポイント増加している。性別では、男性は平成25年度から「アレルギー（喘息・アトピーなど）」が11ポイント減少し、「発育」が13ポイント増加している。（図表Ⅴ－２－３）

【性／年齢別・こどもの健康状態（主観的）別】

＜図表Ｖ－２－４＞（全項目）

（%）

			n	よく病気をする	アレルギー（喘息・アトピーなど）	食べ物の好き嫌い	食事のリズム（朝食ぬきの生活など）	発育	その他	無回答
性／年齢別	男性	乳児[0歳]	8	－	37.5	25.0	25.0	12.5	37.5	12.5
		幼児[1～5 歳]	79	8.9	16.5	29.1	7.6	19.0	19.0	26.6
		小学生[6歳以上]	118	3.4	22.9	17.8	7.6	20.3	18.6	31.4
	女性	乳児[0歳]	8	－	12.5	－	25.0	12.5	37.5	37.5
		幼児[1～5 歳]	78	5.1	16.7	34.6	7.7	9.0	12.8	33.3
		小学生[6歳以上]	120	2.5	18.3	19.2	4.2	7.5	20.8	35.8
健康状態（主観的）別	非常に健康である		255	2.4	12.2	21.2	4.7	10.6	18.4	40.4
	まあ健康である		141	7.1	28.4	23.4	9.2	18.4	19.9	19.9
	普通		15	6.7	46.7	40.0	26.7	26.7	20.0	－
	健康ではない		4	25.0	50.0	75.0	50.0	50.0	25.0	－

※性／年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
※こどもの健康状態（主観的）別の“その他”は分析を明確化するため省略している。
※こどもの健康状態（主観的）別の“健康ではない”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「食べ物の好き嫌い」は、幼児が約３割と高くなっている。女性でも「食べ物の好き嫌い」は、幼児が３割台半ばと高くなっている。

『問７　こどもの健康状態（主観的)』の回答別でみると、「アレルギー（喘息・アトピーなど)」、「発育」、「食事のリズム（朝食ぬきの生活など)」で、健康ではないほど比率も高い傾向がみられる。（図表Ｖ－２－４）

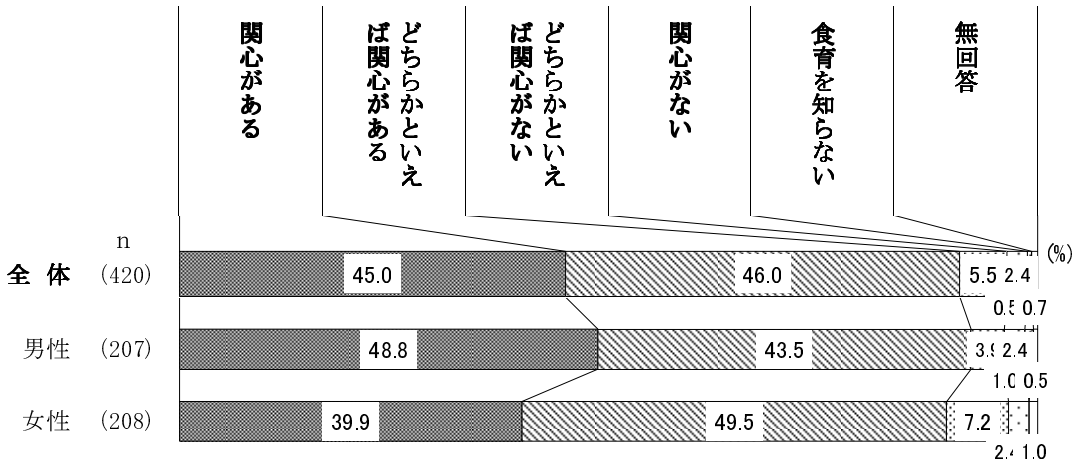
３　食生活・栄養について

（１）食育への関心度

◇《関心がある》は９割を超える

問11　あなたは、「食育」に関心がありますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－３－１＞**食育への関心度**

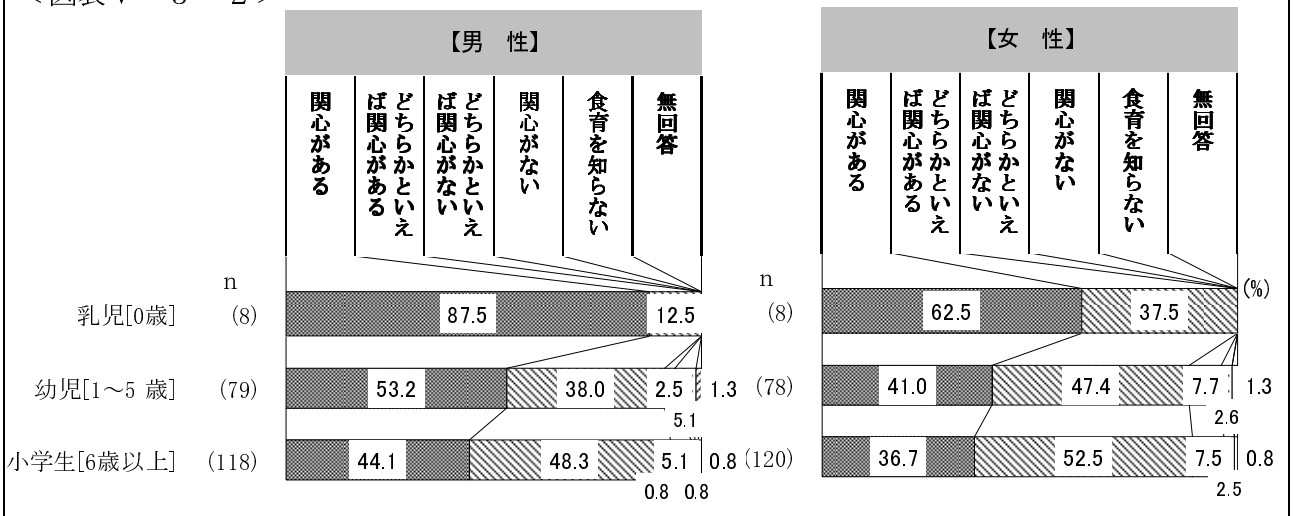


食育への関心を聞いたところ、「関心がある」(45.0％)と「どちらかといえば関心がある」(46.0％)を合わせた《関心がある》（91.0％）は９割を超えている。一方、「どちらかといえば関心がない」（5.5％）と「関心がない」（2.4％）を合わせた《関心がない》（7.9％）は１割を下回っている。

性別では、「関心がある」は男性が女性より８ポイント高く約５割、「どちらかといえば関心がある」は女性が男性より６ポイント高く約５割となっている。（図表Ｖ－３－１）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－３－２＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

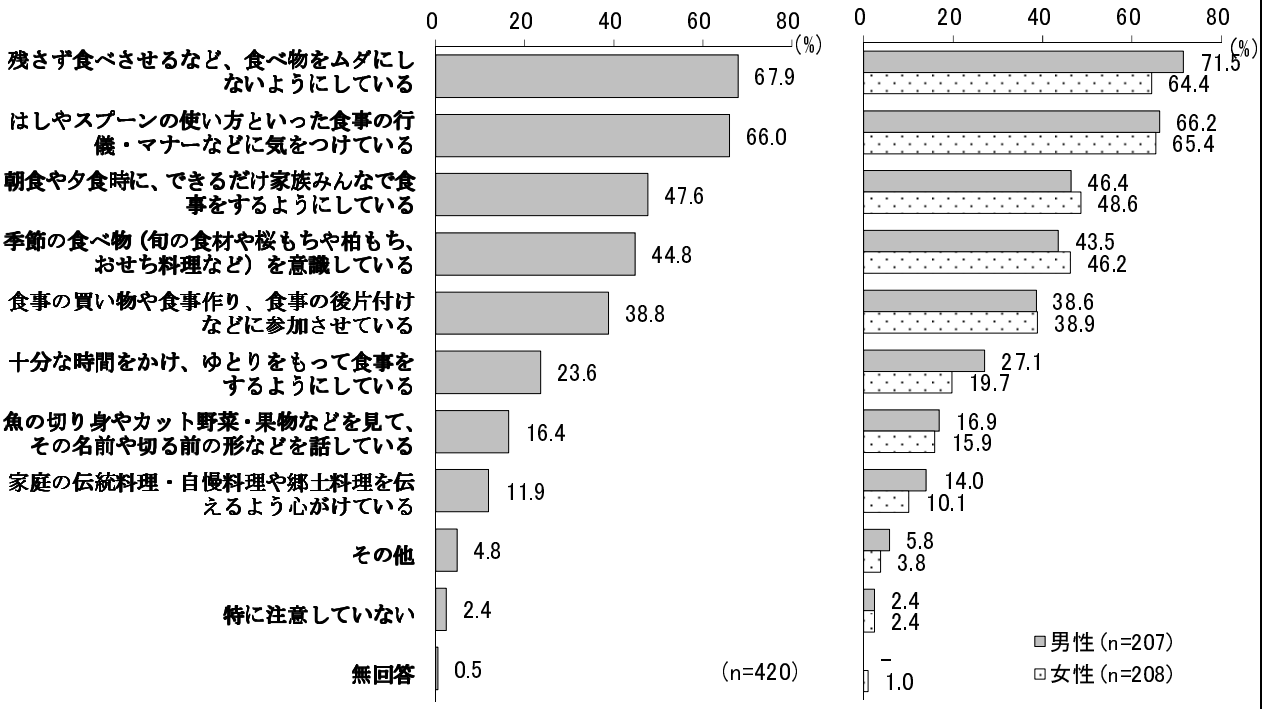
男女ともに《関心がある》は高く、男性は９割を超え、女性は約９割となっている。（図表Ｖ－３－２）

（２）こどもの食生活で心がけていること

◇「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」が約７割

問12　あなたが、お子さんの食生活で心がけていることを、次の中から選んでください。
（○はいくつでも）

＜図表Ｖ－３－３＞こどもの食生活で心がけていること



こどもの食生活で心がけていることとしては、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」（67.9％）が約７割で最も高く、次いで「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」（66.0％）が６割台半ば、「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」（47.6％）が約５割となっている。

性別でみると、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」は男性が女性より７ポイント高く、７割を超える。「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」も男性が女性より７ポイント高く約３割となっている。（図表Ｖ－３－３）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－３－４＞（全項目）

（%）

			n	十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている	朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている	季節の食べ物（旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など）を意識している	家庭の伝統料理・自慢料理や郷土料理を伝えるよう心がけている	はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている	魚の切り身やカット野菜・果物などを見て、その名前や切る前の形などを話している	食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている	残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている	その他	特に注意していない	無回答
性／年齢別	男性	乳児[0歳]	8	62.5	12.5	12.5	－	－	－	－	37.5	12.5	－	－
		幼児[1～5 歳]	79	30.4	43.0	46.8	7.6	54.4	24.1	40.5	62.0	6.3	3.8	－
		小学生[6歳以上]	118	22.0	50.8	42.4	17.8	78.0	12.7	39.0	79.7	5.1	1.7	－
	女性	乳児[0歳]	8	25.0	25.0	25.0	－	12.5	12.5	－	25.0	12.5	12.5	12.5
		幼児[1～5 歳]	78	26.9	43.6	41.0	6.4	59.0	20.5	38.5	57.7	7.7	1.3	1.3
		小学生[6歳以上]	120	14.2	54.2	50.8	13.3	73.3	13.3	41.7	70.8	0.8	2.5	－

※性／年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は、年齢が上がるほど漸増する傾向があり、小学生で約８割となっている。「食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている」、「季節の食べ物（旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など）を意識している」は幼児が高く、特に「季節の食べ物（旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など）を意識している」は４割台半ばとなっている。女性では、小学生が高い項目が多く、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は７割台半ば、「残さず食べさせるなど、食べ物をムダにしないようにしている」は７割となっている。「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」は幼児が高く、２割台半ばとなっている。（図表Ｖ－３－４）

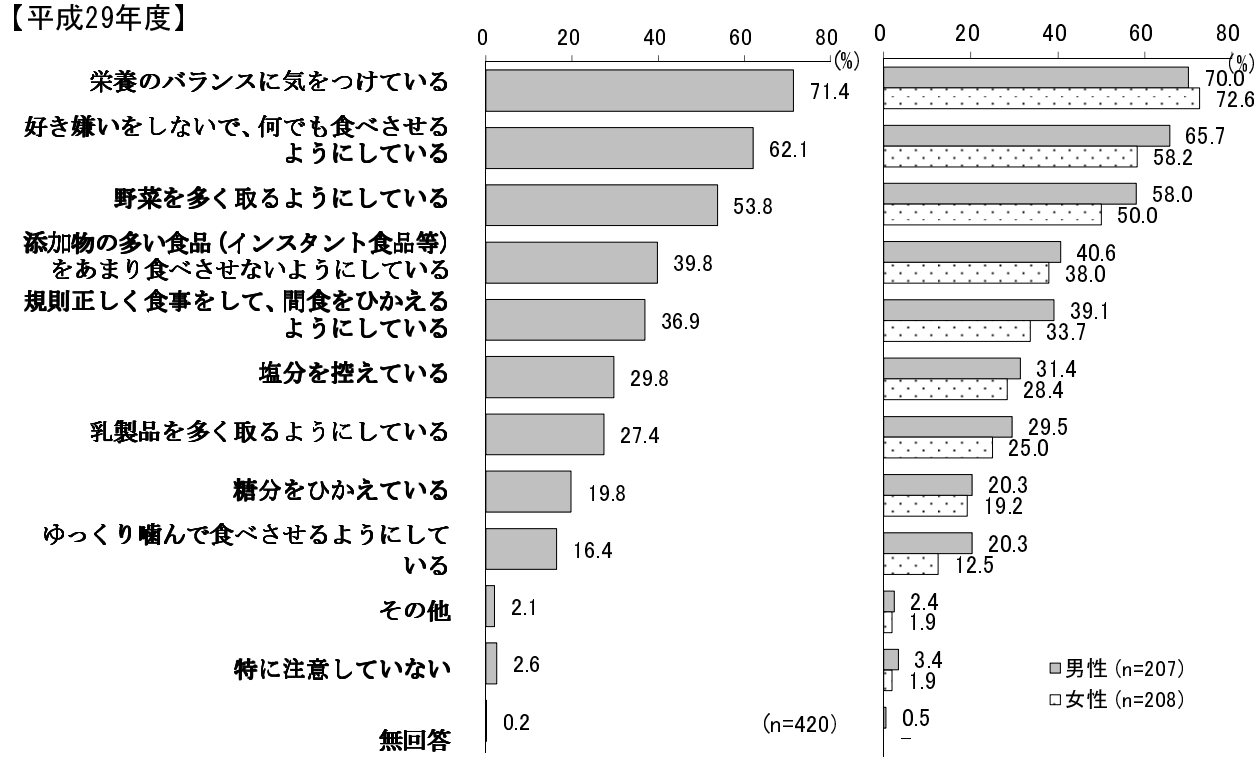
（３）こどもの食事の摂取で心がけていること

◇「栄養のバランスに気をつけている」が７割を超えて最も高い

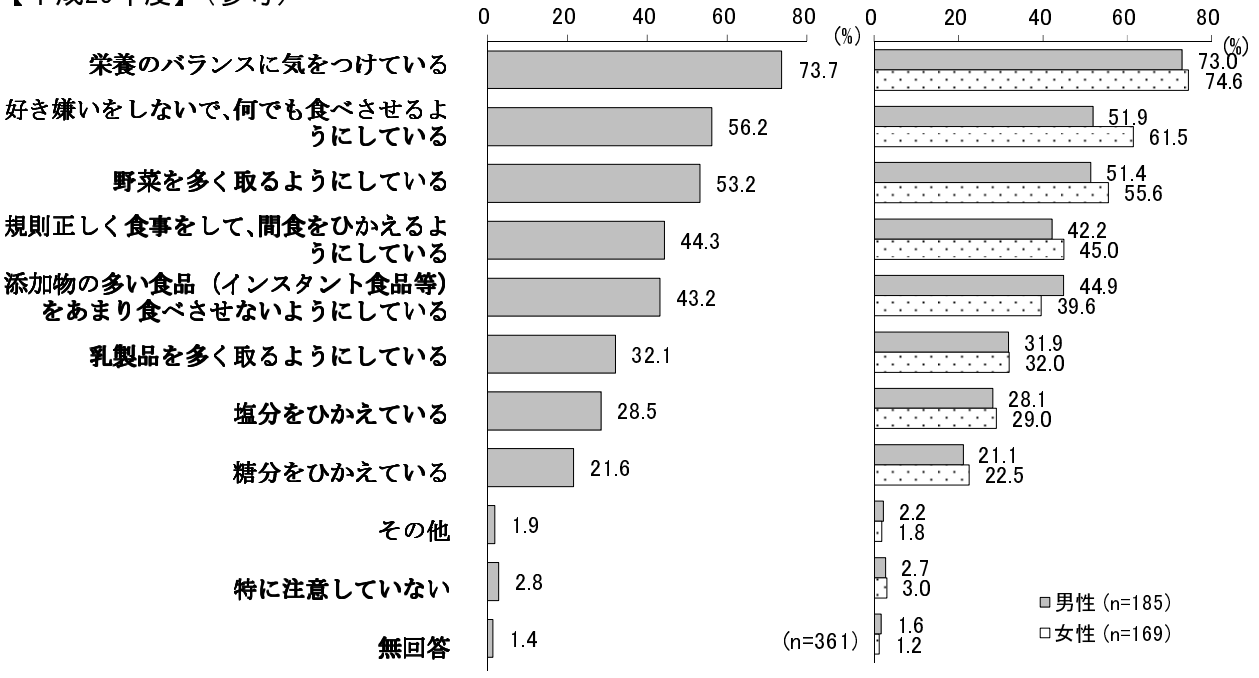
問13　あなたが、お子さんの食事の摂取で心がけていることを、次の中から選んでください。
（○はいくつでも）

＜図表Ｖ－３－５＞こどもの食事の摂取で心がけていること

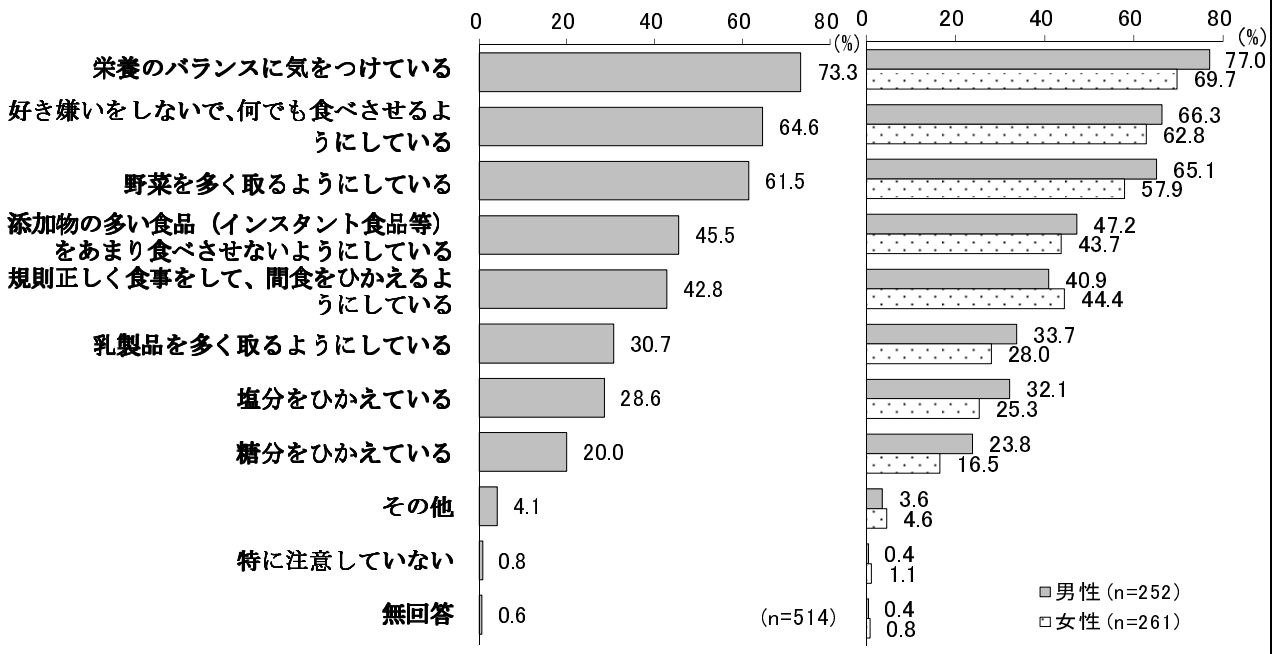
【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



【平成19年度】（参考）



こどもの食事の摂取で心がけていることを聞いたところ、「栄養のバランスに気をつけている」（71.4％）が７割を超えて最も高く、次いで「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」（62.1％）が６割を超え、「野菜を多く取るようにしている」（53.8％）が５割台半ばとなっている。

性別でみると、男性が女性より高いものが多く、「野菜を多く取るようにしている」は８ポイント高く約６割、「ゆっくり噛んで食べさせるようにしている」は７ポイント高く２割、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は７ポイント高く６割台半ばとなっている。

過去の調査結果との比較については、選択肢数が異なることから、参考までに図示するに留める。（図表Ⅴ－３－５）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－３－６＞（８項目）

（%）

			n	栄養のバランスに気をつけている	好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている	規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている	ゆっくりよく噛んで食べさせるようにしている	添加物の多い食品（インスタント食品等）をあまり食べさせないようにしている	塩分をひかえている	糖分をひかえている	乳製品を多く取るようにしている	野菜を多く取るようにしている	その他	特に注意していない	無回答
性／年齢別	男性	乳児[0歳]	8	75.0	50.0	12.5	12.5	25.0	－	－	12.5	37.5	12.5	12.5	－
		幼児[1～5 歳]	79	69.6	67.1	44.3	20.3	57.0	43.0	32.9	27.8	51.9	5.1	2.5	－
		小学生[6歳以上]	118	69.5	65.3	37.3	21.2	30.5	25.4	13.6	32.2	63.6	－	3.4	0.8
	女性	乳児[0歳]	8	75.0	50.0	37.5	12.5	37.5	75.0	62.5	25.0	37.5	12.5	－	－
		幼児[1～5 歳]	78	65.4	52.6	32.1	10.3	39.7	35.9	19.2	29.5	43.6	3.8	1.3	－
		小学生[6歳以上]	120	76.7	61.7	33.3	14.2	37.5	20.0	15.8	22.5	55.0	－	2.5	－

※性／年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。
※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では、幼児が小学生より高い項目が多く、「栄養のバランスに気をつけている」、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」が約７割と高くなっている。女性では小学生が幼児より高い項目が多く、「栄養のバランスに気をつけている」は７割台半ば、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は６割を超えて高くなっている。（図表Ｖ－３－６）

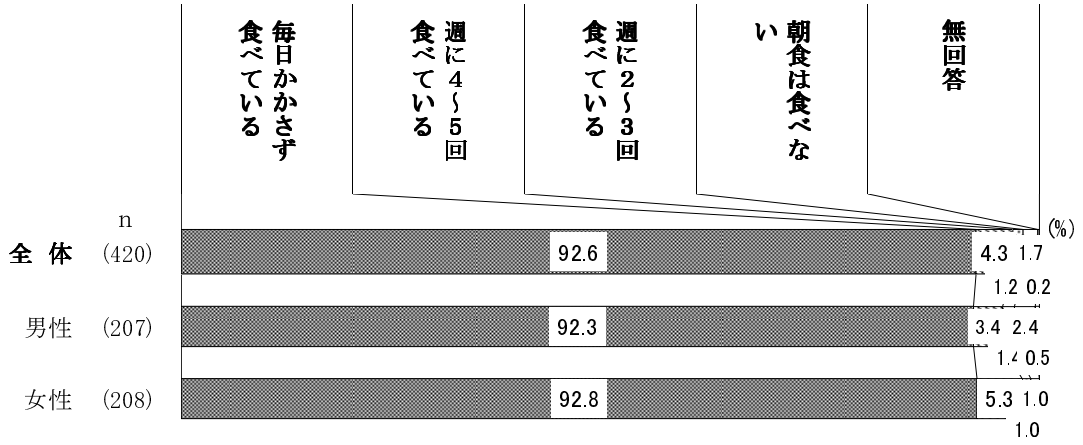
（４）こどもの朝食の摂取状況

◇「毎食かかさず食べている」は９割を超える

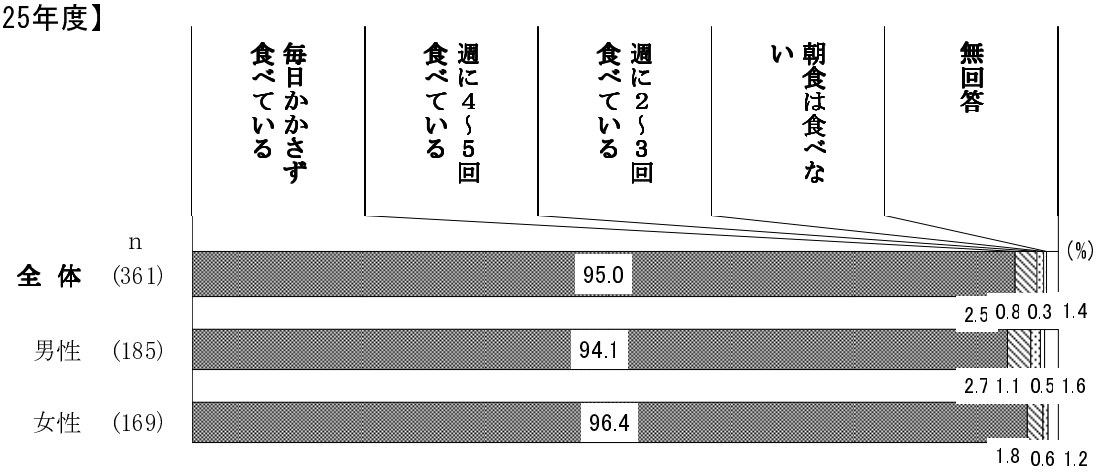
問14　お子さんは、ふだんきちんと朝食を食べていますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－３－７＞こどもの朝食の摂取状況

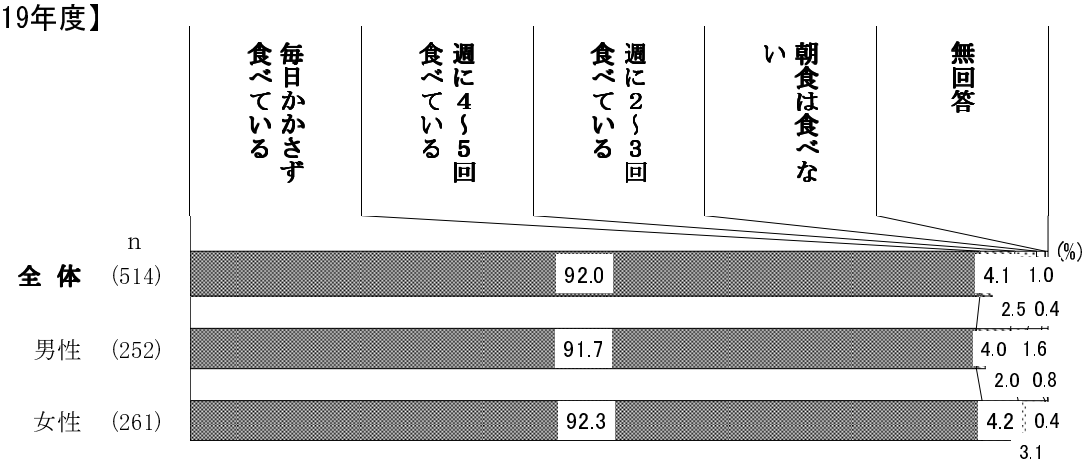
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



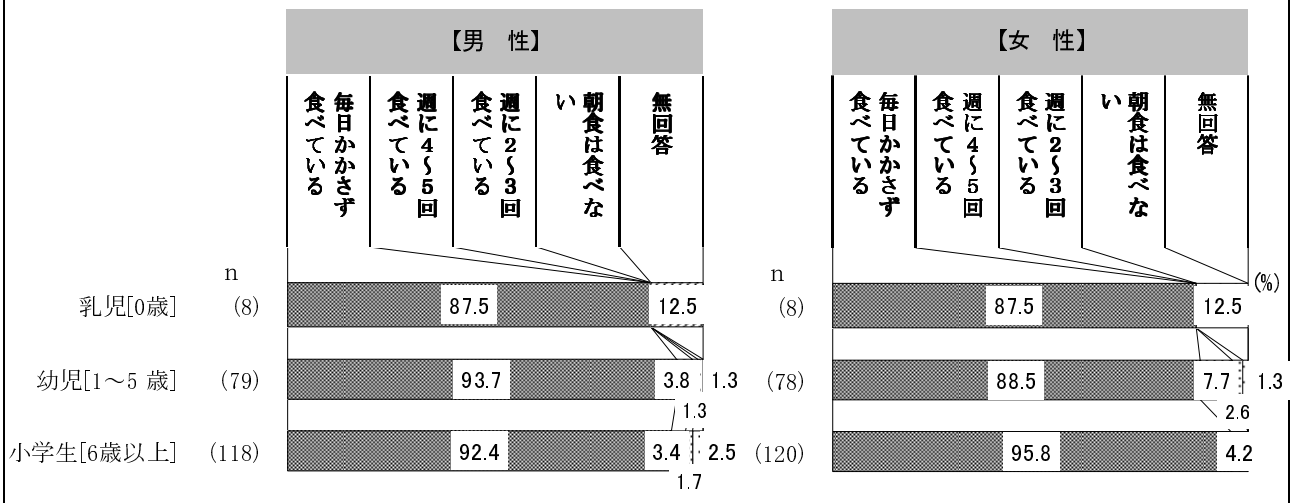
こどもの朝食の摂取状況を聞いたところ、「毎日かかさず食べている」（92.6％）は９割を超えて最も高く、次いで「週に４～５回食べている」（4.3％）、「週に２～３回食べている」（1.2％）、「朝食は食べない」（1.7％）と、いずれも１割を下回っている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較しても、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。（図表Ｖ－３－７）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－３－８＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

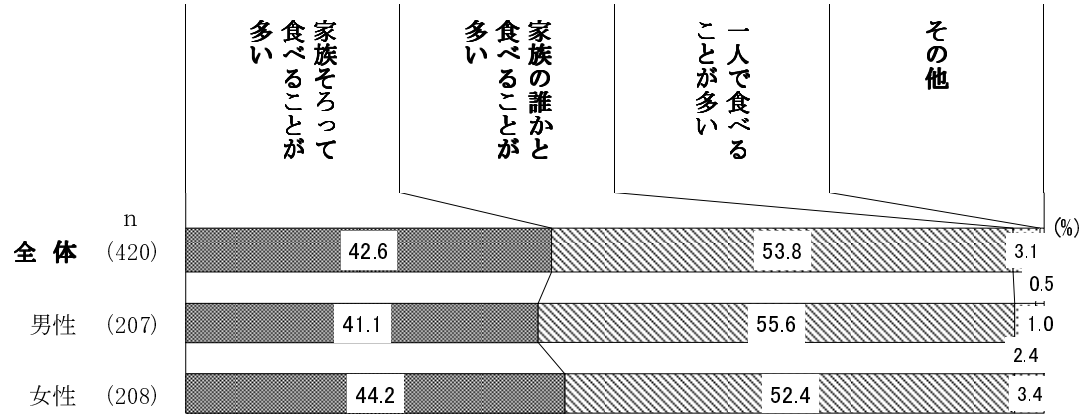
男性では「毎日かかさず食べている」は、幼児が９割台半ば、小学生が９割を超えている。女性では、「毎日かかさず食べている」は小学生が９割台半ば、幼児が約９割となっている。（図表Ｖ－３－８）

（５）家族と一緒の食事

◇《家族と食事する》が９割台半ば

問15　お子さんは、ふだん家では家族と一緒に食事をしていますか。（○は１つだけ）

＜図表Ⅴ－３－９＞家族と一緒の食事

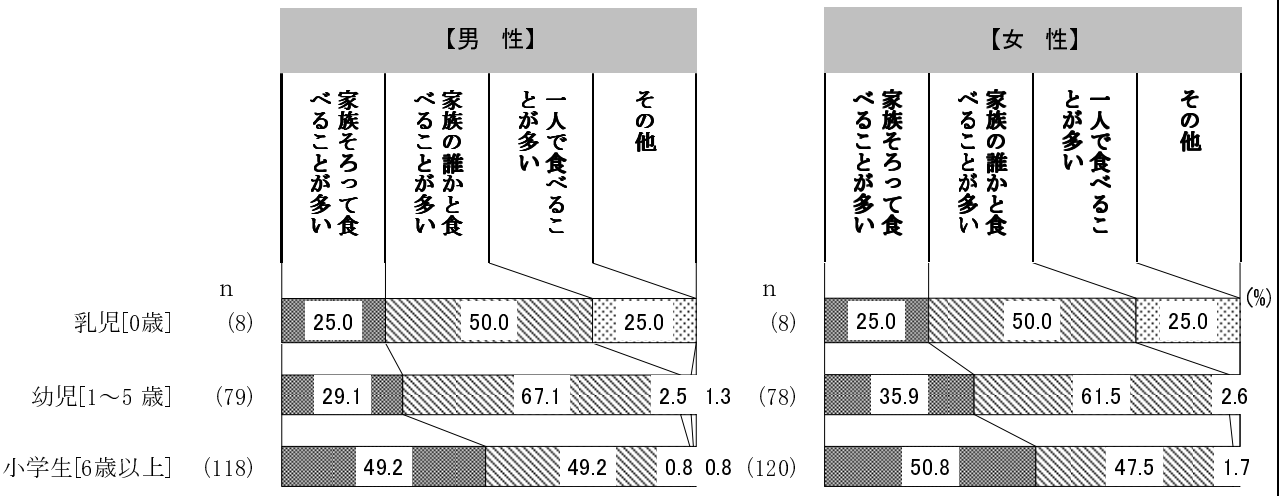


食事を「家族そろって食べることが多い」(42.6%)と「家族の誰かと食べることが多い」(53.8%)を合わせた《家族と食事する》(96.4%)は９割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。(図表Ⅴ－３－９)

【性／年齢別】

＜図表Ⅴ－３－10＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

男女ともに、小学生は「家族そろって食べることが多い」が高く、幼児は「家族の誰かと食べることが多い」が高くなっている。《家族と食事する》は、男性の幼児以外はほぼ全数となっている。(図表Ⅴ－３－10)

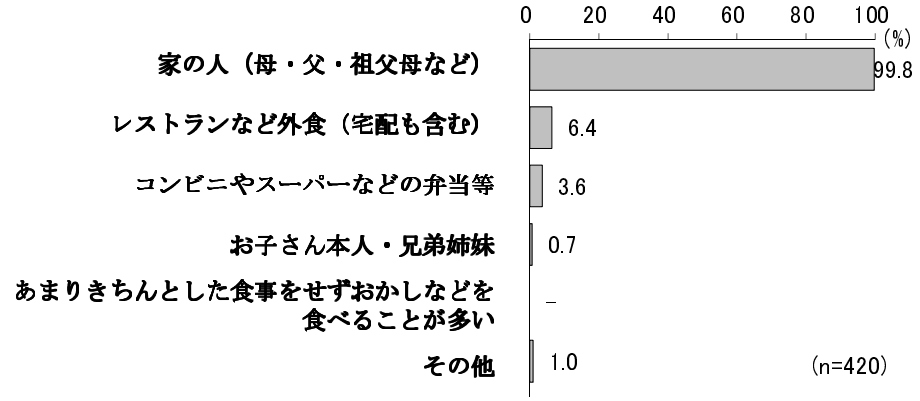
（６）こどもの食事の提供者

◇「家の人（母・父・祖父母など)」がほぼ全員

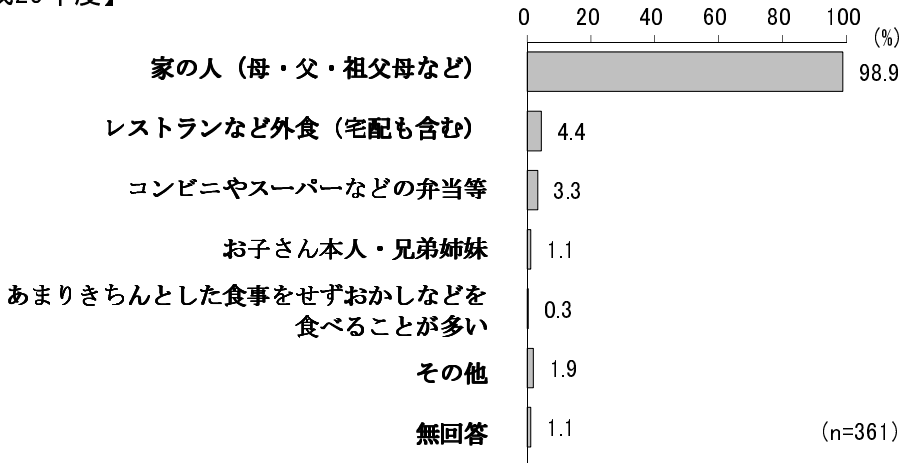
問16　ふだん、お子さんの食事を主に作る（提供する）のは誰ですか。（○は３つまで）

＜図表Ｖ－３－11＞こどもの食事の提供者

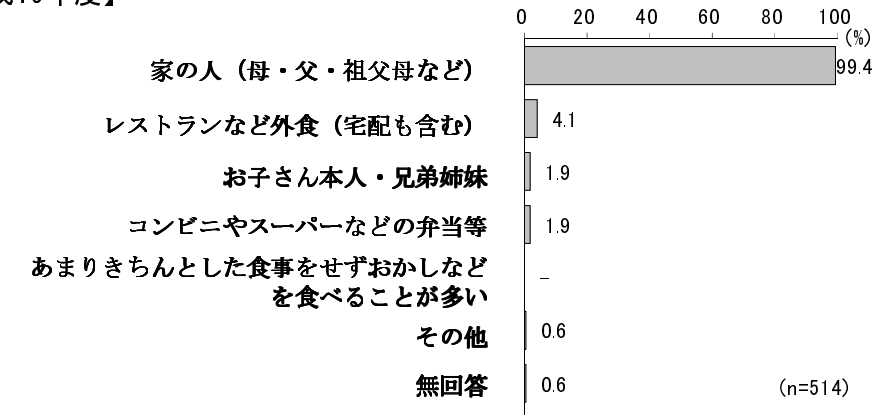
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



こどもの食事の提供者を聞いたところ、「家の人（母・父・祖父母など)」(99.8%）がほぼ全数となっている。

過去の調査結果と比較しても、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表Ｖ－３－11)

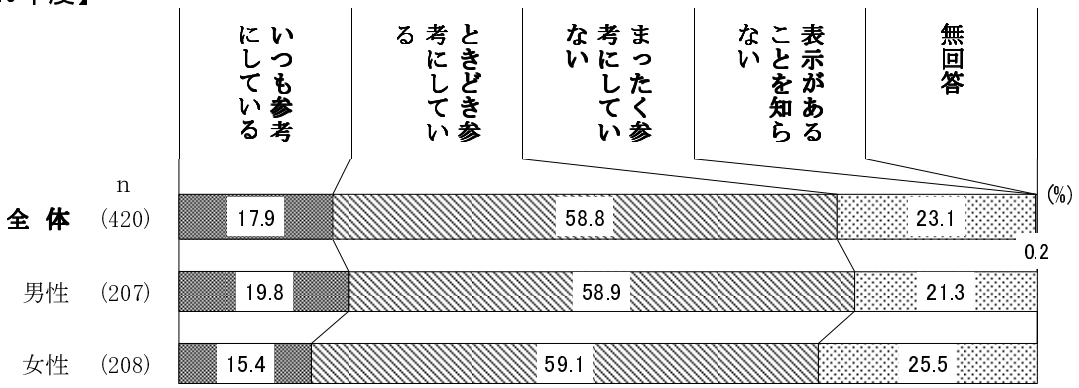
（７）栄養成分表示を参考にしている程度

◇《参考にしている》は７割台半ば。一方、「まったく参考にしていない」は２割台半ば

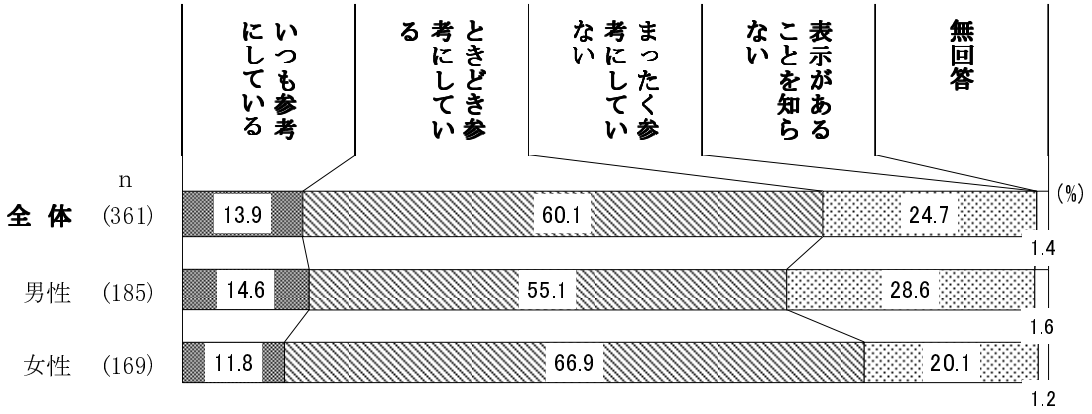
問17　あなたは、飲食店や食品売場等で栄養成分表示を参考にしてメニューや食品を選びますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－３－12＞栄養成分表示を参考にしている程度

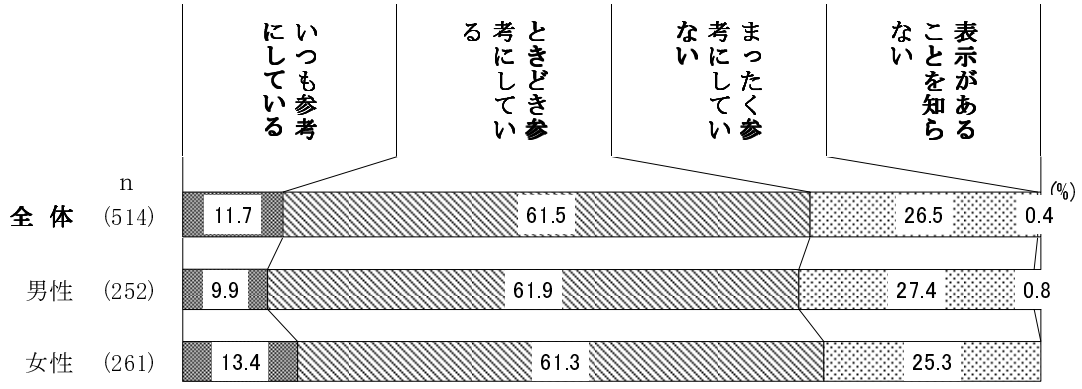
【平成29年度】



【平成25年度】（参考）



【平成19年度】（参考）



栄養成分表示を「いつも参考にしている」（17.9％）と「ときどき参考にしている」（58.8％）を合わせた《参考にしている》（76.7％）は７割台半ばとなっている。一方、「まったく参考にしていない」（23.1％）は２割台半ばである。

性別では、特に大きな違いはみられない。

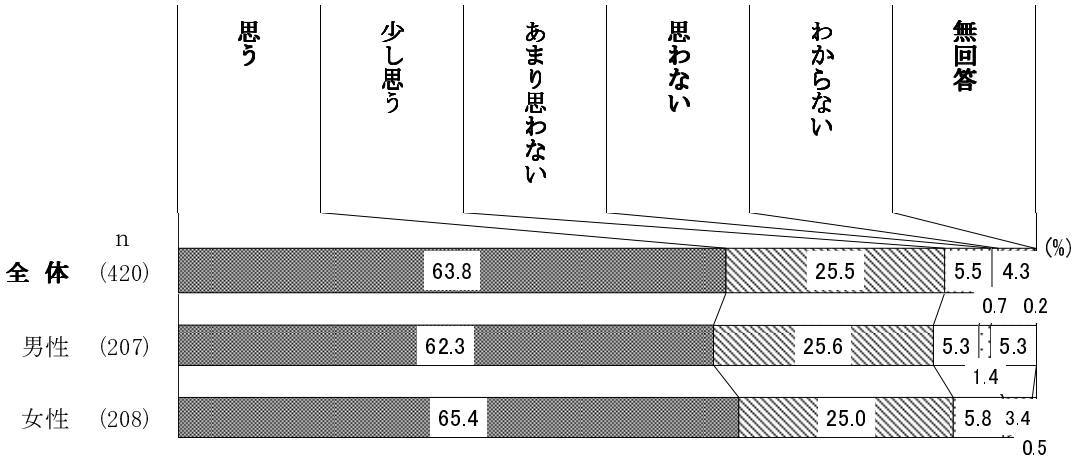
過去の調査結果と比較すると、全体では「いつも参考にしている」が増加傾向にあり、平成19年度から６ポイント増加している。性別では、男性は平成25年度から《参考にしている》が９ポイント増加し、「まったく参考にしていない」が７ポイント減少している。女性は平成25年度から「ときどき参考にしている」が７ポイント減少し、「まったく参考にしていない」が５ポイント増加している。（図表Ｖ－３－12）

（８）家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成

◇《思う》が約９割

問18　家庭での食事や生活を通じて、お子さんが健康的な食習慣を身につけていくことができると思いますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－３－13＞家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成



家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成ができると思うか聞いたところ、「思う」（63.8％）と「少し思う」（25.5％）を合わせた《思う》（89.3％）は約９割となっている。

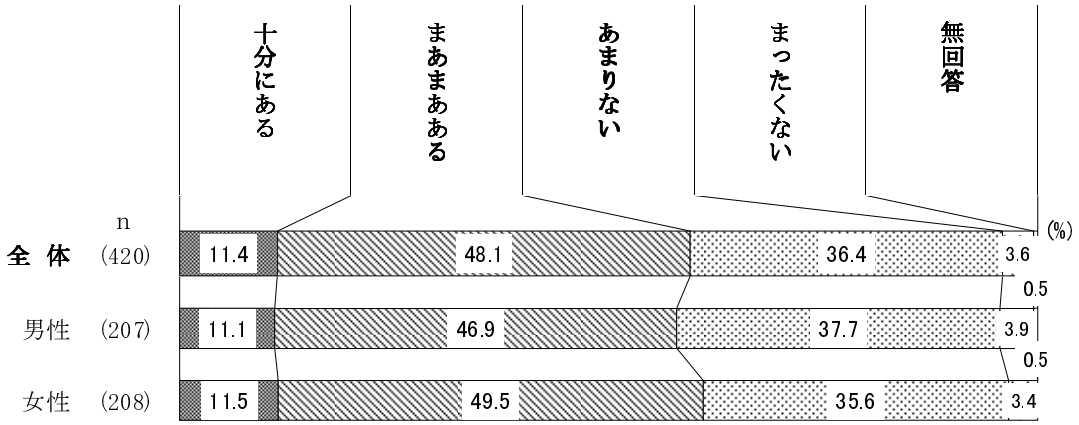
性別では、特に大きな違いはみられない。（図表Ｖ－３－13）

（９）食事に関しての必要な知識や技術の有無

◇《ある》が約６割。一方、《ない》は４割

問19　あなたは、食品を選んだり、バランスのよい食事を作るのに必要な知識や技術があると思いますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－３－14＞**食事に関しての必要な知識や技術の有無**



食事に関しての必要な知識や技術の有無を聞いたところ、「十分にある」（11.4％）と「まあまあある」（48.1％）を合わせた《ある》（59.5％）は約６割となっている。一方、「あまりない」（36.4％）と「まったくない」（3.6％）を合わせた《ない》（40.0％）は４割となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。（図表Ｖ－３－14）

４　身体活動・運動について

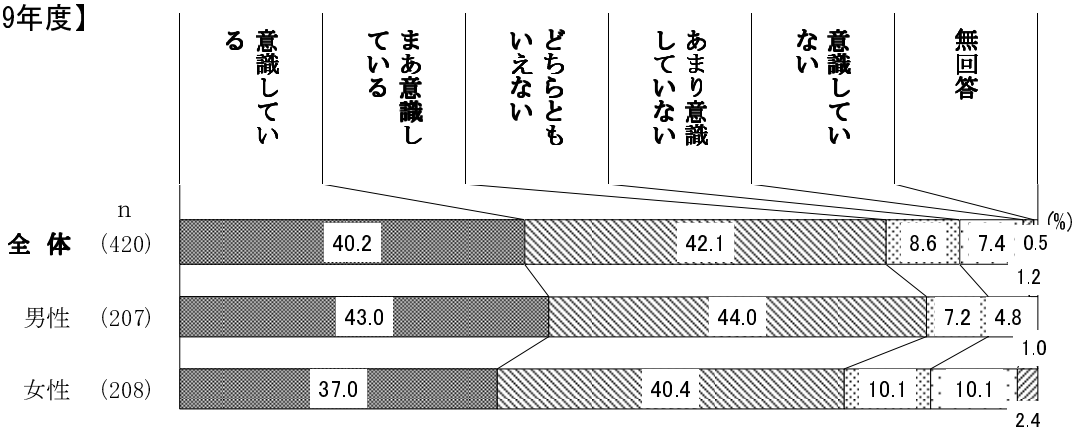
（１）こどもに運動させる心がけ

◇《意識している》は８割を超える。一方、《意識していない》は約１割

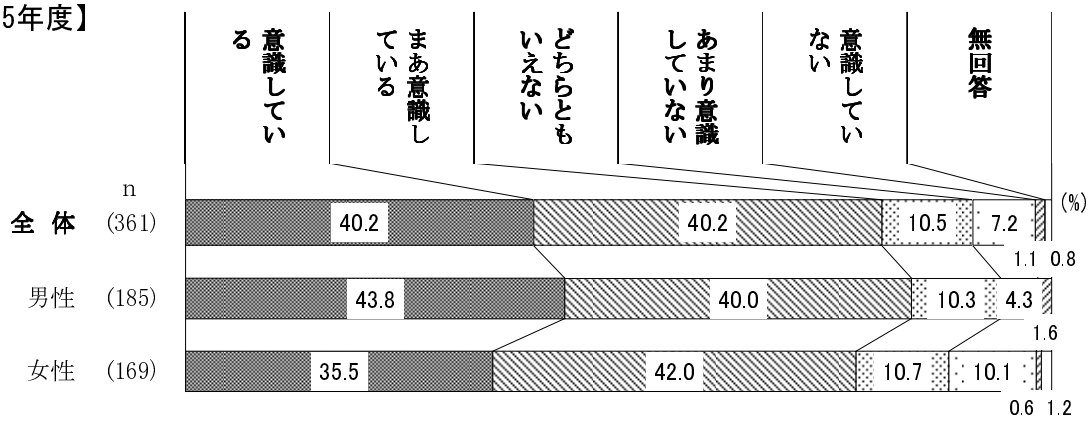
問20　あなたは、お子さんに意識して身体を動かすようにさせていますか。（○は１つだけ）

＜図表Ｖ－４－１＞こどもに運動させる心がけ

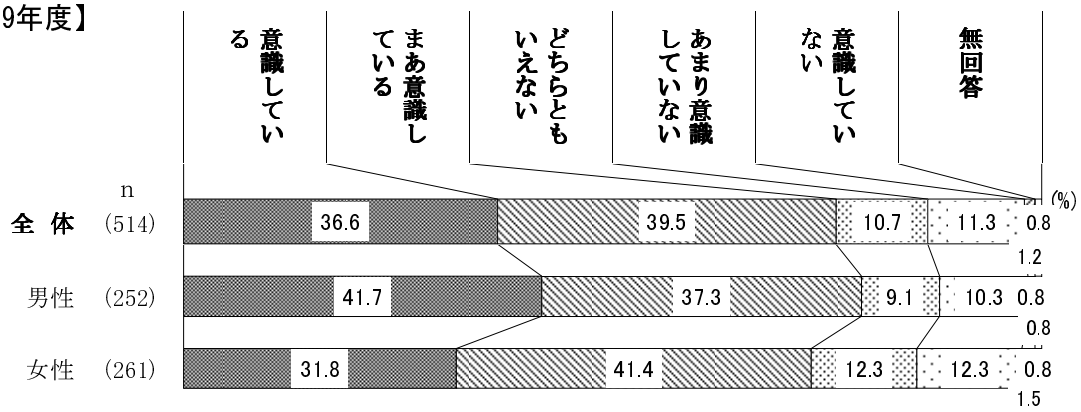
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



こどもに運動させる心がけについて聞いたところ、「意識している」（40.2%）と「まあ意識している」（42.1%）を合わせた《意識している》（82.3%）は８割を超えている。一方、「あまり意識していない」（8.6%）と「意識していない」（1.2%）を合わせた《意識していない》（9.8%）は約１割となっている。

性別でみると、《意識している》は男性が女性より９ポイント高く、約９割となっている。《意識していない》は女性が男性より６ポイント高く、１割を超える。

過去の調査結果と比較すると、全体及び男性で《意識している》が増加傾向にあり、平成19年度から全体で６ポイント、男性で８ポイント増加している。（図表Ⅴ－４－１）

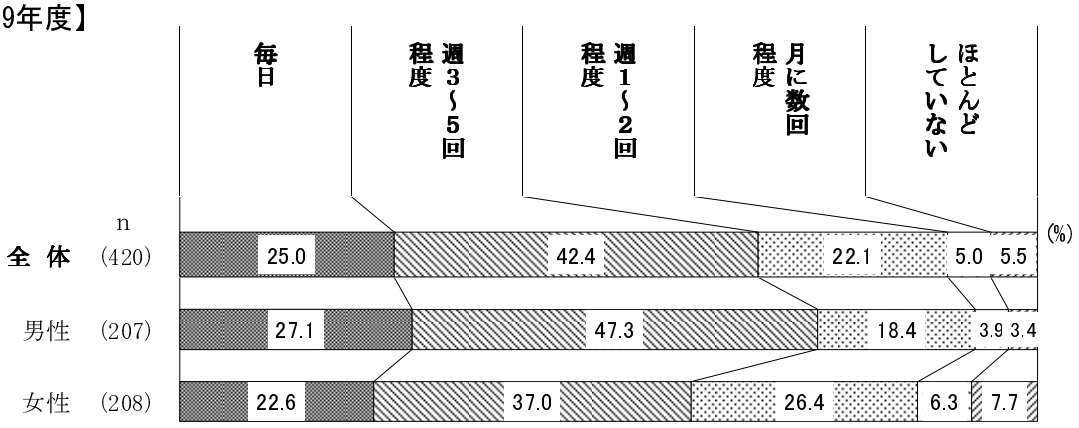
（２）こどもの運動や外遊びの頻度

◇「週３～５回程度」が４割を超えて高く、次いで「毎日」が２割台半ば

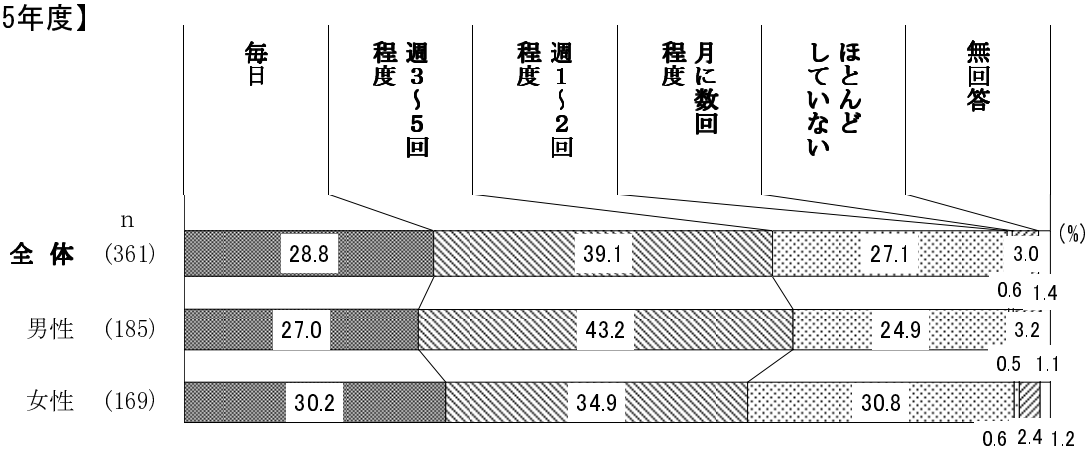
問21－１　お子さんは、どれくらい運動・外遊びをしますか。（○は１つだけ）
地域でのスポーツ活動、習い事、なども含みます。（体育の授業を除く）

＜図表Ｖ－４－２＞こどもの運動や外遊びの頻度

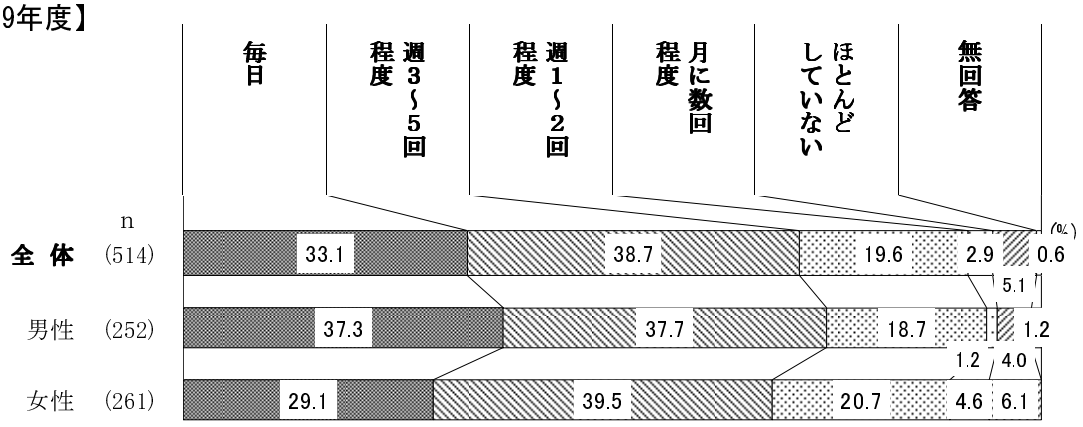
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



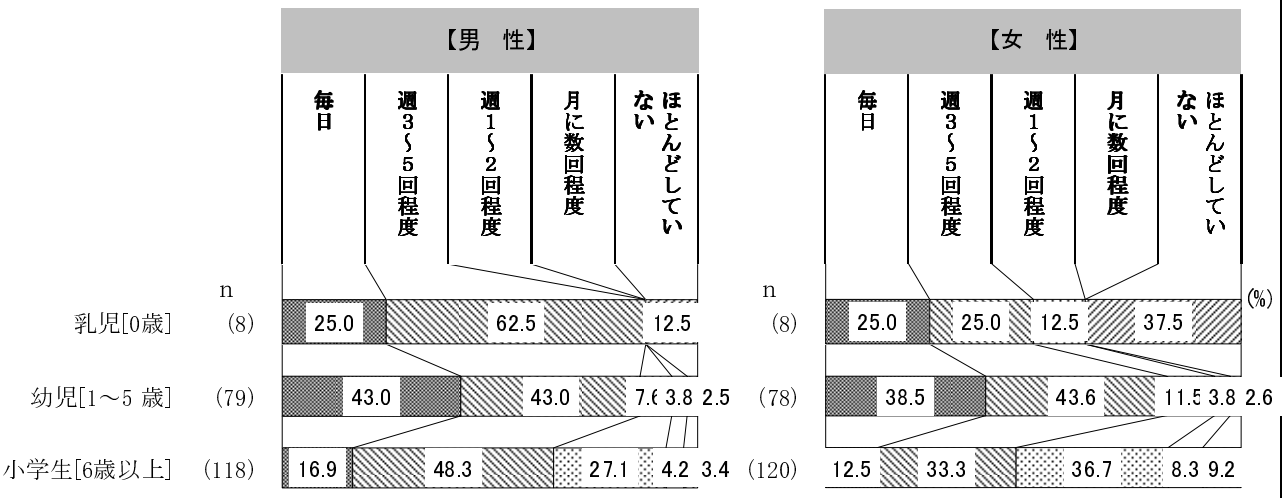
こどもの運動や外遊びの頻度としては、「毎日」(25.0％)が２割台半ば、「週３～５回程度」(42.4％)が４割を超え、「週１～２回程度」（22.1％）が２割を超えている。

性別でみると、「週３～５回程度」は男性が女性より10ポイント高く約５割、「週１～２回程度」は女性が男性より８ポイント高く２割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「週１～２回程度」が平成25年度から５ポイント減少している。性別では、男性は「週３～５回程度」が増加傾向にあり、平成19年度から９ポイント増加している。一方、「週１～２回程度」は平成25年度から６ポイント減少している。女性は平成25年度から「毎日」が７ポイント減少し、「月に数回程度」と「ほとんどしていない」がそれぞれ５ポイント増加している。（図表Ｖ－４－２）

【性／年齢別】

＜図表Ｖ－４－３＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

男性では「週３～５回程度」は、小学生が約５割と高く、「毎日」は幼児が４割台半ばと高くなっている。女性では「週３～５回程度」は幼児が４割台半ばと高く、「毎日」も幼児が約４割と高くなっている。（図表Ｖ－４－３）

（３）こどもが運動や外遊びをしない理由

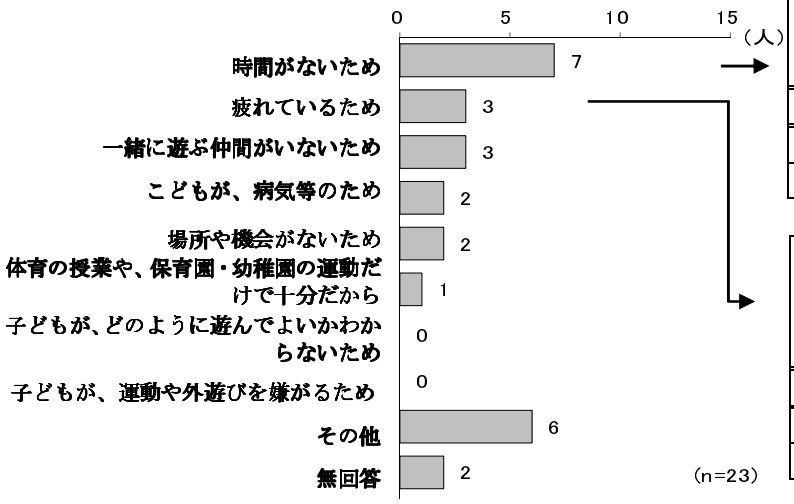
◇「時間がないため」が多い傾向

（問21－１で、「５　ほとんどしていない」とお答えの方に）

問21－２　運動・外遊びをほとんどしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅴ－４－４＞こどもが運動や外遊びをしない理由

【平成29年度】



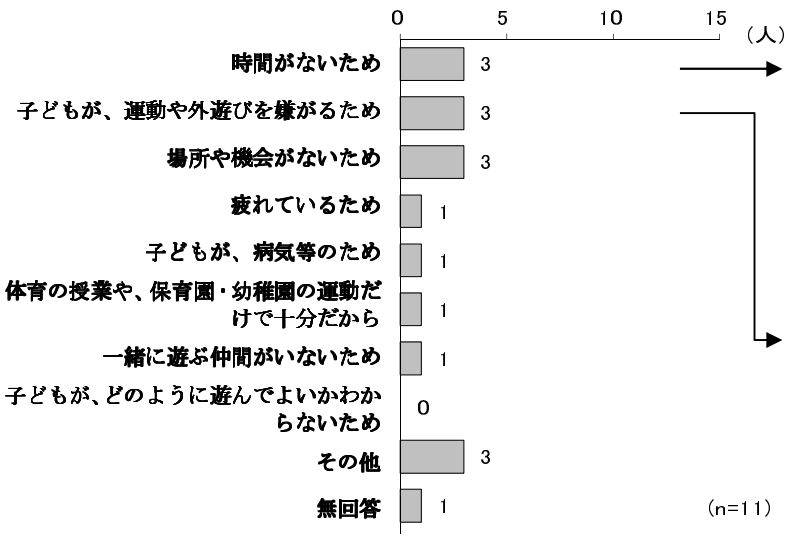
（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方
全体	7	6	－	1
男性	2	1	－	1
女性	5	5	－	－

（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方
全体	3	－	2	1
男性	－	－	－	－
女性	3	－	2	1

【平成25年度】



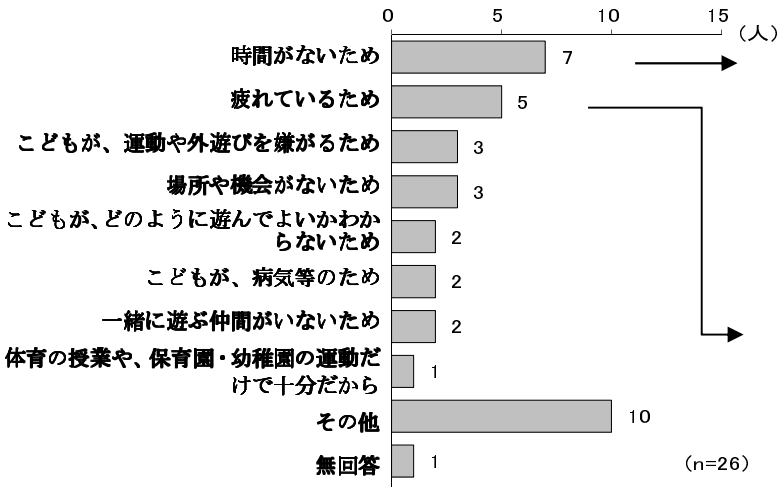
（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方	無回答
全体	3	2	－	1	－

（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方
全体	1	－	－	1

【平成19年度】



（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方	無回答
全体	7	2	2	2	1
男性	4	1	1	2	－
女性	3	1	1	－	1

（人）

	調査数	こども	保護者	こどもと保護者の両方
全体	5	1	3	1
男性	3	1	1	1
女性	2	－	2	－

問21－１で、「５　ほとんどしていない」と回答した人にその理由を聞いた。ここでは回答すべき人数が少ないため、参考までに図表を掲載するに留める。このほか、「時間がないため」と「疲れているため」と回答した方には、それが誰なのかを聞いた結果も右に記載してある。

また、過去の調査結果との比較については、参考までに図示するに留める。（図表Ⅴ－４－４）

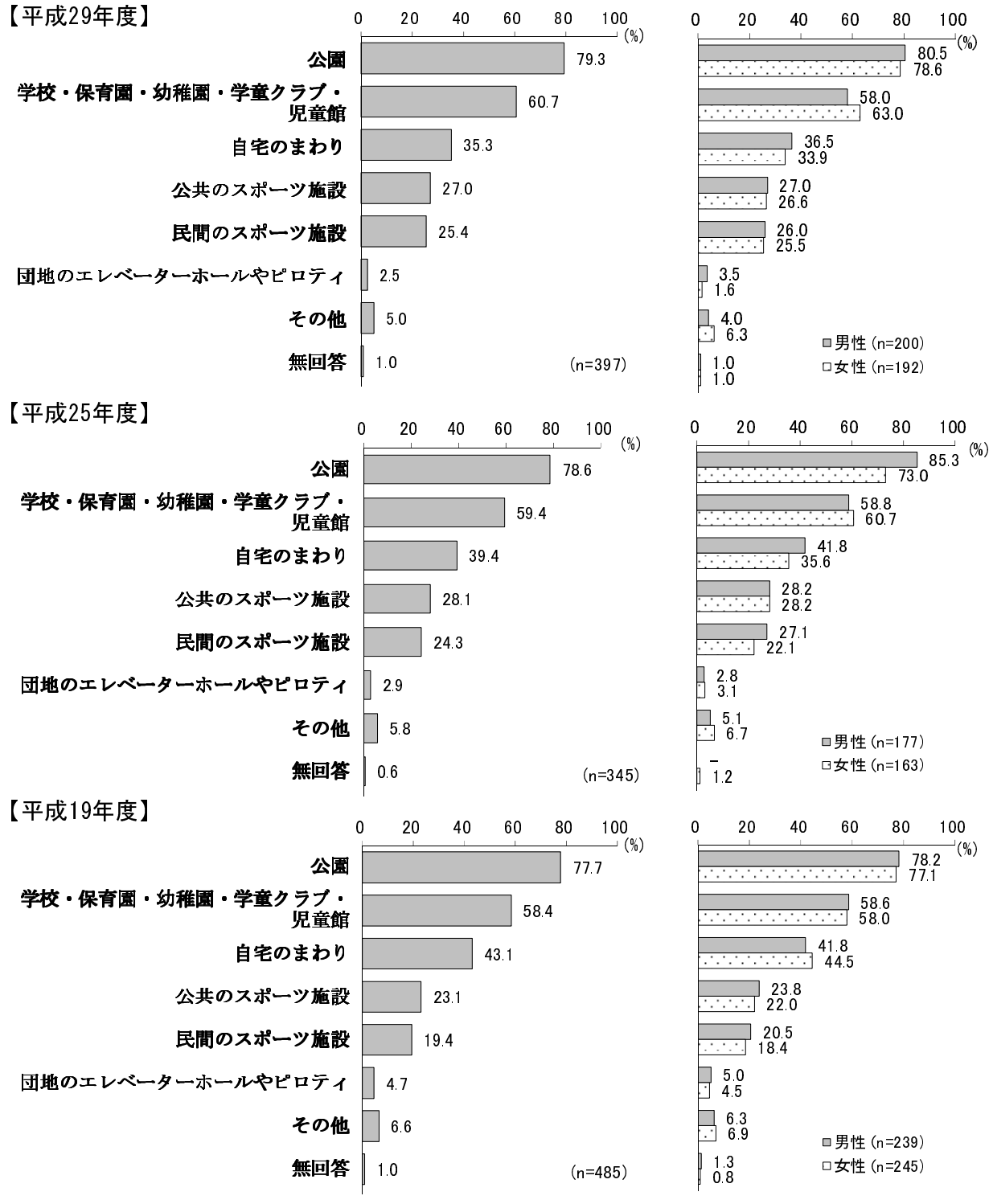
（４）こどもが運動や外遊びをする場所

◇「公園」が約８割で最も高い

（問21－１で、「１」～「４」とお答えの方に）

問21－３　運動・外遊びをどこでしていますか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅴ－４－５＞こどもが運動や外遊びをする場所



問21－１で、「１」～「４」と回答した人にその場所を聞いたところ、「公園」（79.3%）が約８割で最も高く、次いで「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」（60.7%）が６割、「自宅のまわり」（35.3%）が３割台半ばとなっている。

性別でみると、「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」は女性が男性より５ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「民間のスポーツ施設」が増加傾向にあり、平成19年度から６ポイント増加している。一方、「自宅のまわり」は減少傾向にあり、平成19年度から７ポイント減少している。性別では、女性は「公園」が平成25年度から５ポイント増加している。「民間のスポーツ施設」も増加傾向にあり、平成19年度から７ポイント増加している。一方、「自宅のまわり」は減少傾向にあり、平成19年度から10ポイント減少している。（図表Ｖ－４－５）

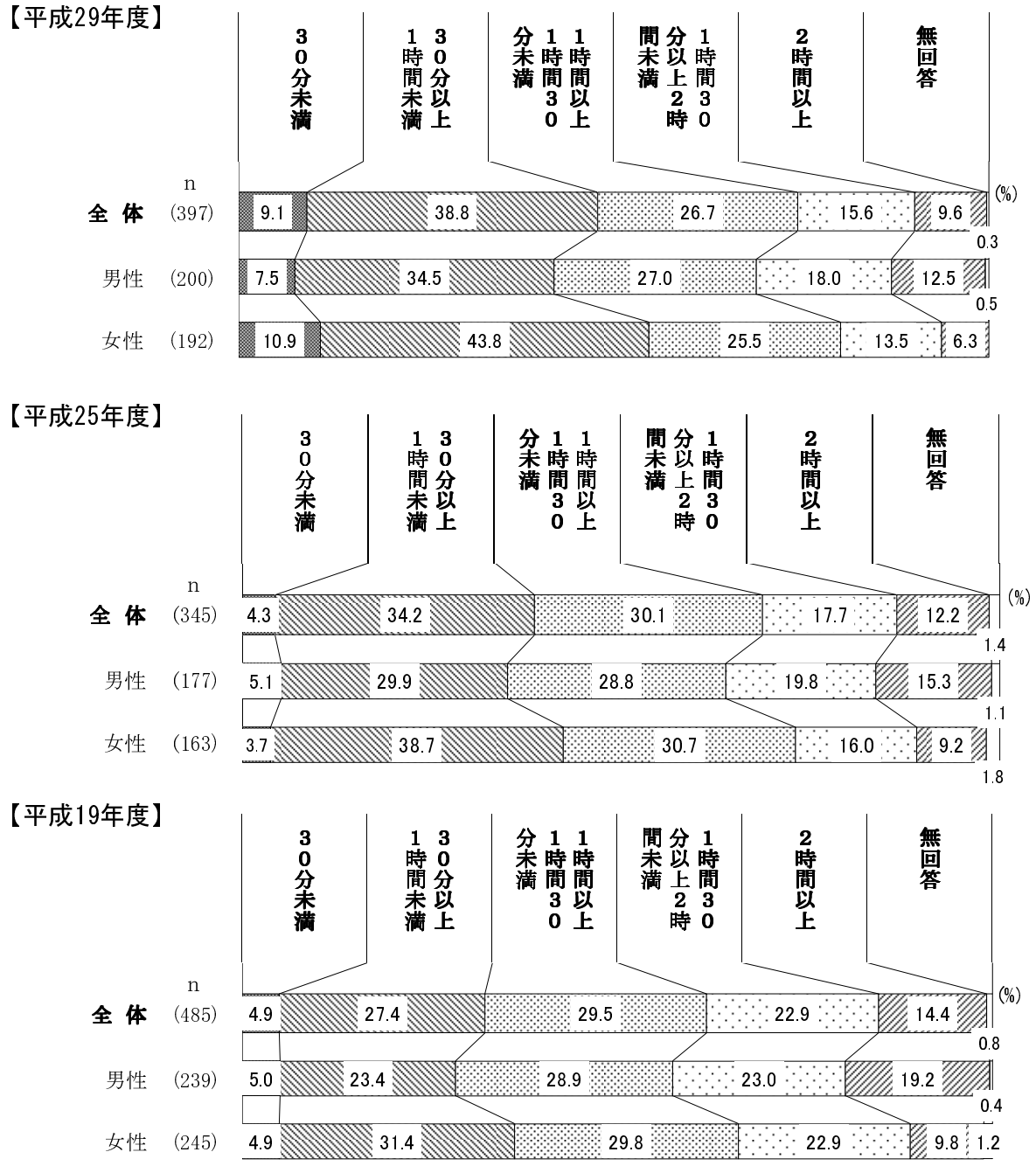
（５）こどもの平均的な運動や外遊びの時間

◇「30分以上１時間未満」が約４割、「１時間以上１時間30分未満」が２割台半ば

（問21－１で、「１」～「４」とお答えの方に）

問21－４　１日平均どのくらい運動・外遊びをしますか。（○は１つだけ）

＜図表Ⅴ－４－６＞こどもの平均的な運動や外遊びの時間



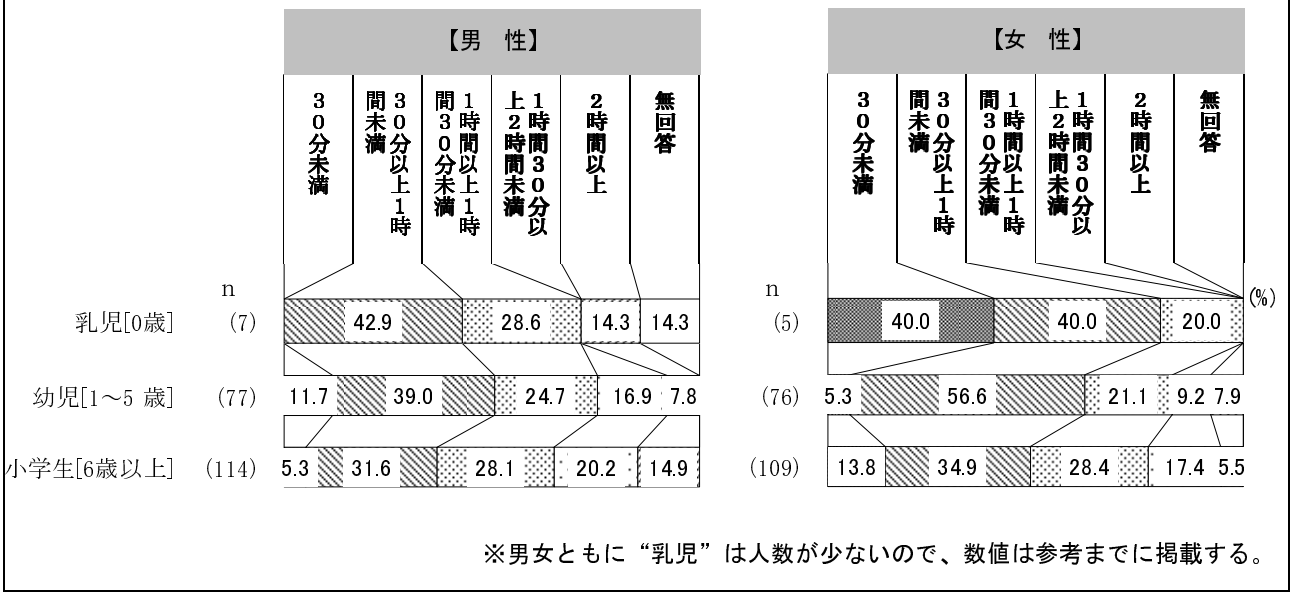
問21－１で、「１」～「４」と回答した人にどの程度の時間かを聞いたところ、「30分以上１時間未満」（38.8％）が約４割で最も高く、次いで「１時間以上１時間30分未満」（26.7％）が２割台半ば、「１時間30分以上２時間未満」（15.6％）が１割台半ばとなっている。

性別でみると、「30分以上１時間未満」は女性が男性より９ポイント高く４割台半ば、「２時間以上」は男性が女性より６ポイント高く、１割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「30分以上１時間未満」が増加傾向にあり、平成19年度から11ポイント増加している。一方、「１時間30分以上２時間未満」は減少傾向にあり、平成19年度から７ポイント減少している。性別では、男女ともに「30分未満」や「30分以上１時間未満」が増加傾向、１時間以上が減少傾向にある。（図表Ⅴ－４－６）

【性／年齢別】

＜図表Ⅴ－４－７＞



※男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。

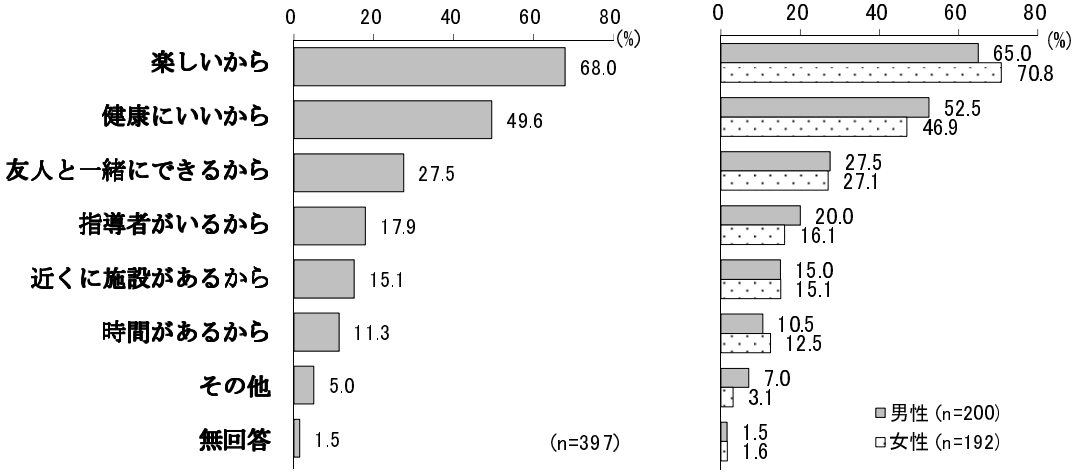
男性では「30分以上１時間未満」は、幼児が約４割と高く、小学生も３割を超えて高くなっている。女性では「30分以上１時間未満」は、幼児が５割台半ばと高く、小学生も３割台半ばと高くなっている。（図表Ⅴ－４－７）

（６）こどもが運動を続ける理由

◇「楽しいから」が約７割で最も高い

（問21－１で、「１」～「４」とお答えの方に）
問21－５　運動を続ける理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表Ｖ－４－８＞こどもが運動を続ける理由



問21－１で、「１」～「４」と回答した人にこどもが運動を続ける理由を聞いたところ、「楽しいから」（68.0％）が約７割で最も高く、次いで「健康にいいから」（49.6％）が約５割、「友人と一緒にできるから」（27.5％）が約３割となっている。

性別でみると、「楽しいから」は女性が男性より５ポイント高く、「健康にいいから」は男性が女性より５ポイント高くなっている。（図表Ｖ－４－８）

（７）こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無

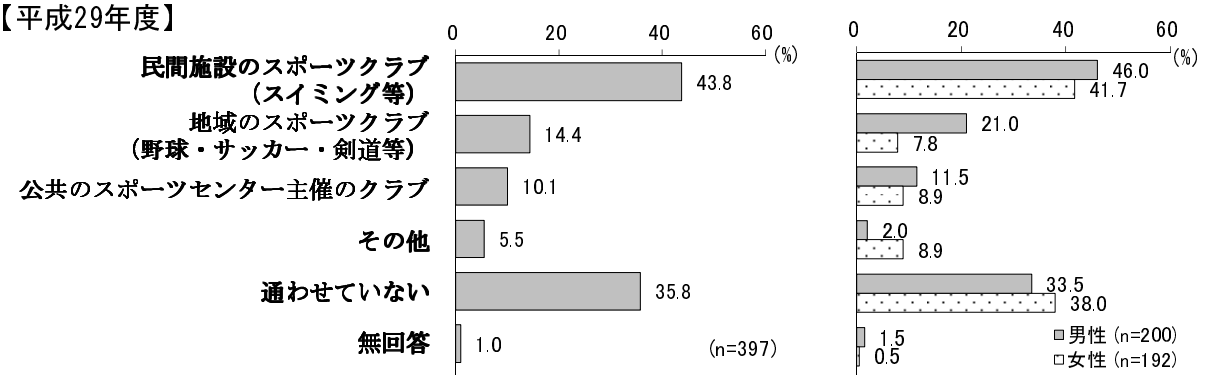
◇「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」が４割台半ば

（問21－１で、「１」～「４」とお答えの方に）

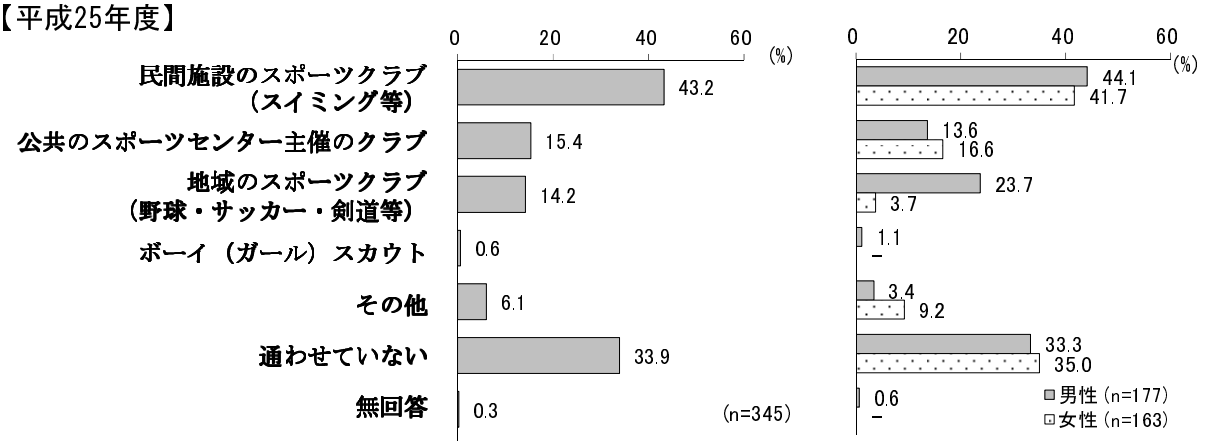
問21－６　スポーツ活動や運動の習い事に通わせていますか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅴ－４－９＞こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無

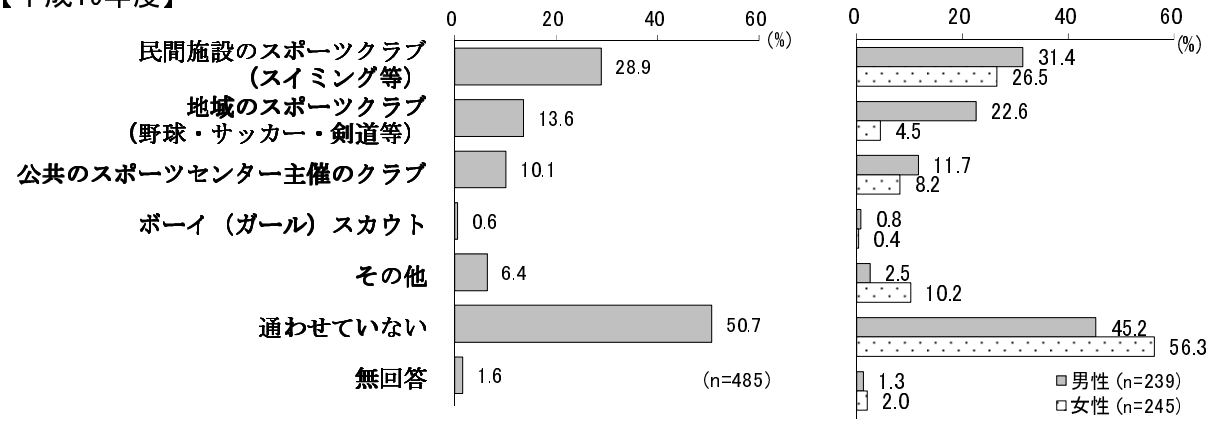
【平成29年度】



【平成25年度】



【平成19年度】



問21－１で、「１」～「４」と回答した人にこどものスポーツ活動や運動の習い事の有無を聞いたところ、「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」（43.8％）が４割台半ばで最も高く、次いで「地域のスポーツクラブ（野球・サッカー・剣道等）」（14.4％）が１割台半ばとなっている。一方、「通わせていない」（35.8％）は３割台半ばとなっている。

性別でみると、「地域のスポーツクラブ（野球・サッカー・剣道等）」は男性が女性より13ポイント高く２割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、全体では、「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」が増加傾向にあり、平成19年度から14ポイント増加している。一方、「公共のスポーツセンター主催のクラブ」は平成25年度から５ポイント減少している。性別では、「民間施設のスポーツクラブ（スイミング等）」は男女ともに増加傾向にあり、平成19年度から男性で14ポイント、女性で15ポイント増加している。一方、女性は「公共のスポーツセンター主催のクラブ」が平成25年度から７ポイント減少している。（図表Ⅴ－４－９）